

第29回筑後川フェスティバル in 玖珠  
九州河川災害ネットワーク交流会議

報告書

平成27年11月

事務局：NPO 法人嘉瀬川交流軸

## 第29回筑後川フェスティバル in 玖珠

### 九州河川災害ネットワーク交流会議

事務局:NPO 法人嘉瀬川交流軸

とき： 平成27年11月7日(土) 午後：13:00～15:30

ところ： 福岡県玖珠町 ホテル清流(大分県玖珠町帆足382-12) 0973-72-0708

- コーディネーター NPO法人嘉瀬川交流軸 荒牧 軍治
- アドバイザー NPO法人筑後川流域連携俱楽部 駄田井 正
- (社)北部九州河川利用協会 山本 隆利

今回の九州河川災害ネットワーク会議をスタートアップ会議と位置づけ、3つのテーマについて意見交換をしました。

- ① 今、歴史を学ぶことの必要性について
- ② 災害遺跡・遺産から学んだことを現代にどう活かすか

#### 交流会議進行

■開会挨拶 (社)北部九州河川利用協会 佐藤 幸甫理事長

■基調報告 13:00～14:35

1)川の歴史から何を学び、防災計画にどう活かすか

宮崎大学名誉教授 杉尾 哲氏

2)「九州主要河川の防災・水利・環境歴史遺産に関する基礎調査」について

NPO法人嘉瀬川交流軸 荒牧 軍治氏

3)「筑後川の碑」調査報告

古賀河川図書館 古賀 邦雄氏

4)「佐賀県内の碑」調査報告

佐賀県防災士会 本山 和文氏

#### 質疑

(休憩)

■参加団体からの報告と討議 14:40～15:30

○団体が活動する川に残る特徴的な歴史遺産・事跡の紹介

兄弟河川吉野川からの報告 日下武久氏 吉野川渡し研究会事務局長

兄弟河川利根川からの報告 福成孝三氏 利根川流域交流会会长

○河川に残る歴史的遺産・事跡を今後の河川計画づくりにどう活かすか

講評 駄田井 正 & 山本 隆利

■この事業は一般社団法人北部九州河川利用協会の支援を受けて実施ました。

## 九州河川災害ネットワーク交流会議（玖珠町）



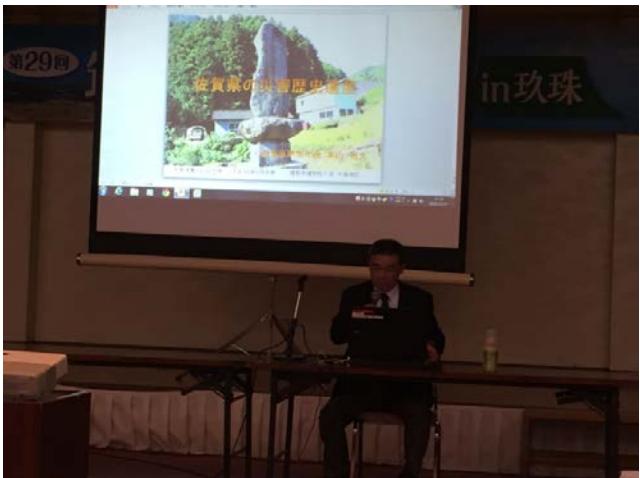
基調講演 杉尾宮崎大学名誉教授



基調報告 荒牧嘉瀬川交流軸



基調報告 古賀河川図書館長



基調報告 本山佐賀県防災士会



兄弟河川からの報告②

利根川からの報告



兄弟河川からの報告①

吉野川からの報告



会場風景①



会場風景②



会場風景③



佐藤北部九州河川利用協会理事長あいさつ

## 基調報告 1

### 川の歴史から何を学び、防災計画にどう活かすか

杉尾 哲 宮崎大学名誉教授

筑後川フェスティバルについては以前から聞いていたのですが、これほど盛大に毎年行われていたのだと言うことにびっくりしました。さすが駄田井先生が元締めでちゃんと締めておられるのだと思いました。荒牧先生から非常に難しい題を貰ってちょっと困ってしまったんですが、自分の経験に絞った資料を作っていましたので、それで勘弁して戴きたいと思います。

宮崎県内にどのような歴史遺産があるかを私なりに調べてみました。延岡の五ヶ瀬川本川に架かっている岩熊井堰とか、耳川の上椎葉ダム、一つ瀬川の一つ瀬ダム、それから杉安井堰、大淀川に観音瀬の水路、轟堰堤跡などがあります。皆さんに配付した資料の水色で示したのが利水関係です。治水関係は、肌色で示したこの3つくらいかなと思います。

歴史的に見ると延岡は内藤藩が城を構えていましたし、都城は、島津本家論争があったような土地ですので気位の高いところです。下流の宮崎に住んでいる我々は、都城の人たちには文句がいえない雰囲気です。五ヶ瀬川本川に架かっている岩熊井堰というのは、延岡の石高が余り上がらないことから造られたものです。現在も直轄の上流端の近くにあって、雄大な風景を提供しています。これが大淀川の盆地から平野に出るところに観音通水路です。大淀川は、都城盆地内を流れる川と宮崎平野部を流れる2つの川があるみたいなのです。山間部を抜けるときにこのような岩場があります。昔は大淀川の河口に港があって、髪型から色々な物資が送られてきます。

それを都城島津藩が川を使って物資を運ぼうとするときにこの岩場が邪魔になりますので、開削をしたのだそうです。こちら側は、きれいの揃っているので機械で施工したことが分かります。これは明治時代に施工されたものだそうで、こちらの揃っていない方は、のみを使って削ったもので、江戸時代に施工されたものであることが分かります。このことにより舟運の手段を確保したわけです。

九州内にもたくさんのダムがありますが、大きいもの

#### 宮崎県内の主な川の歴史遺産



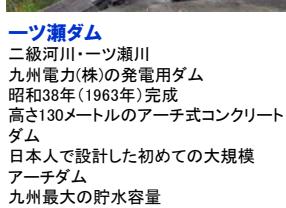
**岩熊井堰と用水路**  
一級河川・五ヶ瀬川  
延岡藩  
享保19年(1734年)完成  
工事前に150石しかなかった米の収穫高が755石に増えた  
昭和8年及び昭和46年に行われた大規模改修により現在の姿となっている



**観音瀬水路**  
一級河川・大淀川  
都城島津藩  
寛政6年(1795年)完成  
幅一間(1.82m)の舟路が完成し、都城岳之下から河口の赤江港間の約72kmの河川航路を開いた  
明治23年(1890年)に、県営事業として更にもう一本水路が完成し、以後2本の水路が利用された



**上椎葉ダム**  
二級河川・耳川  
九州電力(株)の発電用ダム  
昭和29年(1954年)完成  
高さ111.0メートルのアーチ式コンクリートダム  
日本で初めての100メートル級の大規模アーチダムで、その後の日本の土木技術に多大な影響を与えた

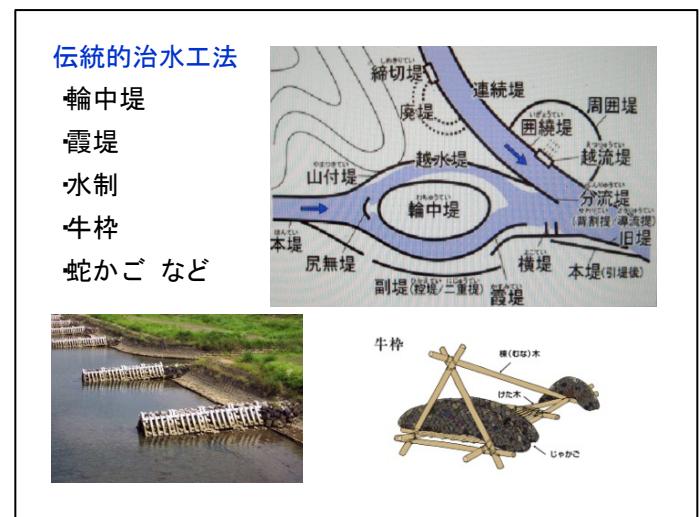


**一つ瀬ダム**  
二級河川・一つ瀬川  
九州電力(株)の発電用ダム  
昭和38年(1963年)完成  
高さ130メートルのアーチ式コンクリートダム  
日本人で設計した初めての大規模アーチダム  
九州最大の貯水容量

と言えば何と言っても上椎葉ダムと一つ瀬ダムの2つでしょう。上椎葉ダムは、日本で最初の100m級のアーチダムで、アメリカの技術者が設計したものです。一つ瀬ダムの方は、日本人が初めて設計から施工までを行ったアーチダムです。このようなアーチダムの技術の下地があつて黒四ダムのようなダムが日本中に作られたことになります。その様な意味で九州のアーチダム群は誇れるものです。

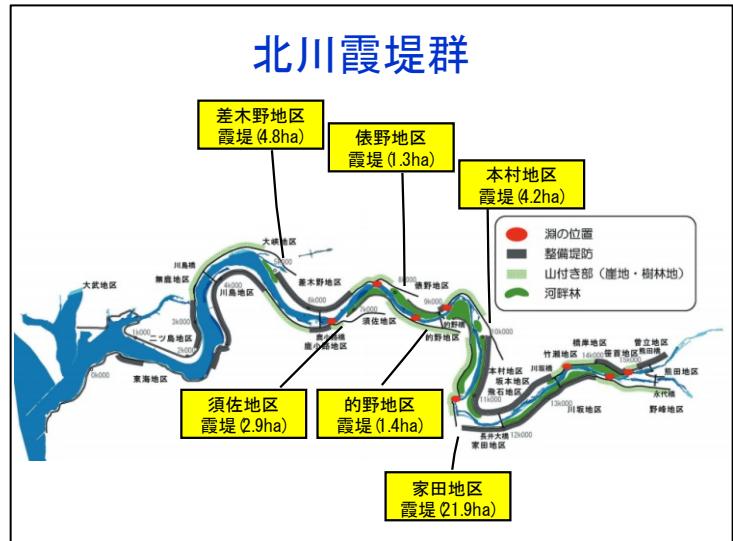
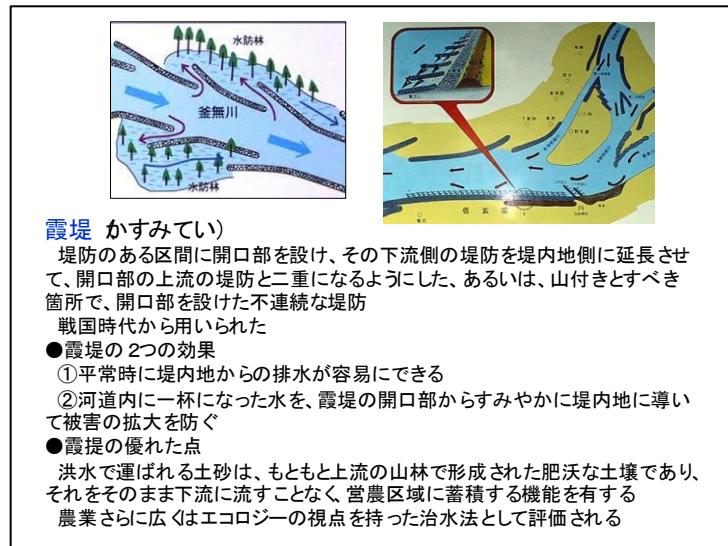
これは観音瀬水路のすぐ上にある轟堰堤跡です。この発電用の堰堤を作ったために都城盆地がしおちゅう浸かる様になって、むしろ旗を立てて、ダム（堰堤）の撤去を求める住民運動が盛んになり、下流にダムができたことで昭和37年に堰堤は撤去されました。今でもこのように堰堤跡が、右左岸側に見ることができます。これは五ヶ瀬川にある施設で、御存じの方もおられると思いますが、畠堤と呼ばれるもので、コンクリート製の枠の中に畠を挟み込んで堤防高さを稼いで越流を防ぐ手法です。日本では他に長良川と揖斐川にもあるそうですが、こここの畠堤は日本の畠堤の中では一番古いと言われています。今年、土木学会土木遺産選奨に登録されました。

今日お話をさせて戴くのは、歴史的な治水をもう一度見直した方が良いとの考え方から、五ヶ瀬川支流の北川の話を持ってきてています。戦国武将たちがさまざまに治水手法を用いていますが、その中に霞堤と呼ばれる工法があります。堤防というのは普通連続して作られるのですが、このようにわざと不連続に間を空けて作られた堤防があります。普通は急流河川で使われるもので、溢れる場所が確保できていって、水位が下がったらまた河川に排水されることを期待した仕組みです。釜無川で用いられた信玄堤に使われていたと聞きますが、基本は樋門とかが無くても排水が容易にできるというところです。先ほどの森の講演でもありましたように、山林には栄養分が豊かな腐葉土が堆積していて、それが下流に流れてきて栄養塩になります。霞堤からそれが供給されるわけですから化学肥料に依存しない営農形態ができるうことになります。



ます。私は、治水と利水と環境保全の3つの調和がとれた一番先端的な治水方法ではないかと自負をしています。今日お話をさせて戴きたいのは北川の霞堤群の話です。北川水系は、五ヶ瀬川水系の中に入っています。中途半端に詳しい方は、「五ヶ瀬川水系なの」とよく言われます。実は、河口のちょっと上流に合流しているので、五ヶ瀬川水系です。高千穂の方から流れてくるのが五ヶ瀬川本川で、大分県の方から流れてくるのが北川です。直轄区間は下流部の5kmないくらいの区間で、ほとんどを県が管理している川です。流域面積が600km<sup>2</sup>ない位で、本川の延長が50kmない位です。堤防のない時代は良く溢れていって、北川村では毎年どのように治水安全度を高めるかが議論になっていたそうです。その時、北川村の企画課長に森竹さんという方がおられて、全国山村振興調査会に東大の高橋裕先生がおられる方を聞きつけたそうです。ちょうど東大の学生紛争が収まったころで、高橋先生も暇を持て余していたらしくて、「高橋先生が来てくれるらしい」ということになりました。高橋先生に北川を見てもらい、「北川の治水方法はどのようなやり方が良いか」の報告書を作ってもらって、それを県の方に提出しようということをこの森竹さんが考えられたそうです。高橋先生は教授になられたばかりのころで、虫明さんとかの強者学生たちが付いてきているわけです。彼らが調査をして、「北川は山が迫った平地の中を流れている。ここに大きな断面の川を作ると田畠を潰さなければいけなくなる。その案では村民の合意は得られないだろう」と考えて「ここでは霞堤方式が一番良い」という報告書を作られました。その報告書を受けて県が堤防を作っていくことになります。

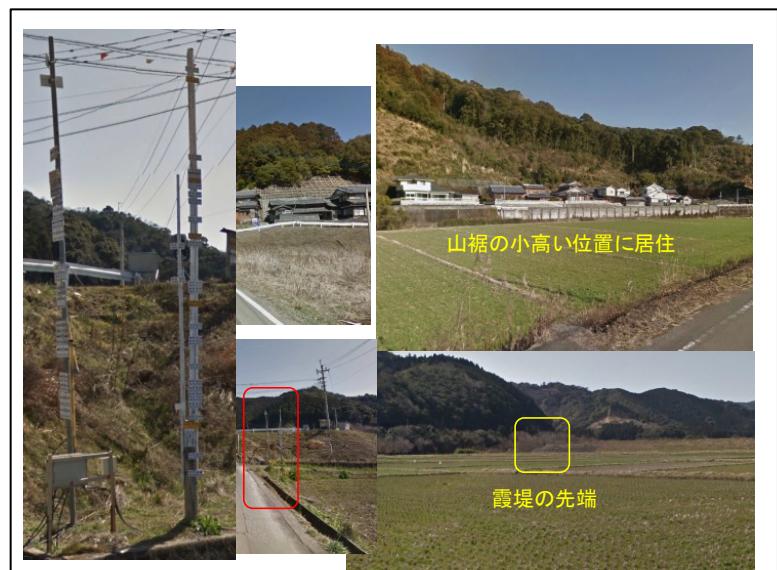
不思議な縁だなと思うのは、平成9年に北川が溢れますぐ、その時の町長がその森竹さん



なのです。その時の北川の計画流量は 4000t ない位です。その川に 5000 t の水が流れたわけですから、川の断面を拡大しなければならなくなります。その時まではこの森北町長は毎年県に来て、「毎年のように水が上がってくるので、6 か所ある霞堤を閉めてくれ」と要求をされていました。その町長が激特事業で「どうするかを」議論している最終段階で、突然「霞堤方式じゃないとこの町は持たない。私は良く知っているから」と提案を拒否しました。やっぱり首長さんというのはすごいなと思います。この時、この森竹課長が町長でなかったら、北川の霞堤はなくなっていたかもしれませんのです。一番理解している方が首長におられた。

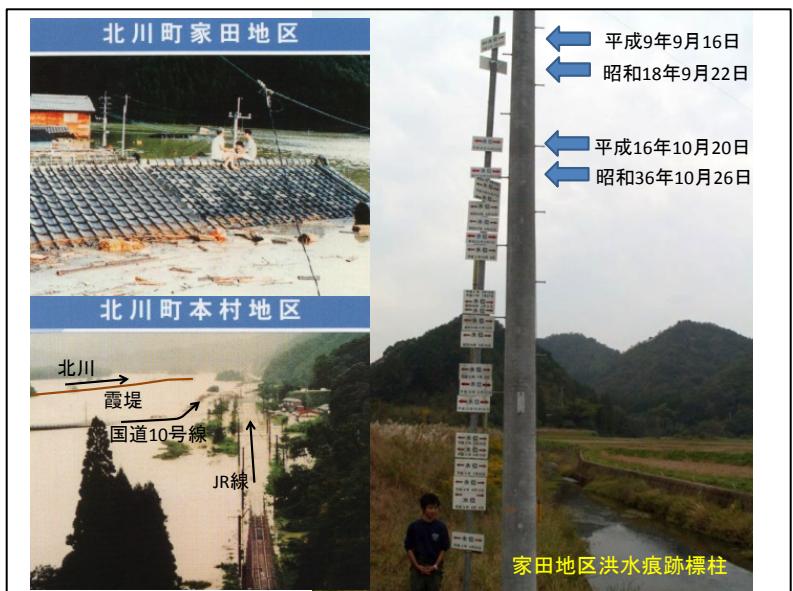
ここが五ヶ瀬川の河口です。五ヶ瀬川がこう流れてきて北川がここで合流します。北川の町役場がここにあります。この 15 km の区間に 6 か所霞堤があり、現在も残っています。一番大きいのが、家田とかいて「えだ」と呼びますが、この家田地区の霞堤です。この霞堤から平成 9 年に水が溢れました。北川をどのように改修するかを検討する際に、この家田にある霞堤の水位をどの程度にするかで苦労しました。北川はこのように大きくうねうねと曲がっているのが理解できると思いますが、山にあたって方向を変えるのです。なので、当然ここには山があります。普通は、「山付堤」と言って堤防を山につけるのですが、霞堤は、山につけるところで開いているのです。

ここも、ここでも山にあたるところで開いています。これは宮崎県が撮った航空写真です。先ほど言った家田の霞堤がここで、堤防がここまでしかありません。普通は山付でここまで来るのが、ここまでしかなくてここは開いています。水位が上がると田畠が浸かります。ここは的野といいますが、この堤防は激特で新たに作った堤防ですが、ここまでしか堤防を作っていません。航空写真を見てお分かりいただけるように、山裾のちょっと高いところに皆さん住んでおられます。低いところは水田のまま使っています。これは最新の写真で、「行って撮ってきた写真」と言えば信用してもらえるかもしれませんが、実はストリートビューです。家田の堤防はここまでです。この地区では宅地嵩上げを行っています。宅地嵩上げをすると家が約 2 m 上がります。そうすると今まで使っていた道路と段差ができてしまいます。宮崎県がいろいろ考えててくれて、道路を付け替えて、屋敷と道路との敷高の格差が変わらないようにしてくれています。この樋管は昔はありませんでした。そのまま田畠が続いている、道路があって、ちょっと高いところに屋敷があるという配置だったのですが、今はこのように工事してくれ



ています。

ここに 2 本の標柱が見えますが、こちらが、この横にお住いの黒木さんという方が立てられた標柱です。美香氏の洪水水位がどこまで来たかを記して標柱を立てておられる。私は、宮崎県内にこのような標柱があることを全く知らないで、或る本を見ていたら高橋先生が、この横に立って、このような標柱があることを説明されていました。私は、「へー、コンナ所もあるんだな」と感心していたら、何のことではない宮崎県のことでした。今はこちらにあるコンクリート製の電柱に付け変わった所ですが、今は古いのと新しいのが 2 本立っている状況です。(20:42)これが人間です。私が昭和 18 年 10 月生まれですが、私が生まれる 1 か月前に大きな台風が来たと親から聞いていましたが、この時の水位がここだったそうです。平成 9 年はこれを超えてもっと上まで浸かった。住民は高台に住んでいましたが、その高台の屋根の上に避難している写真です。以下に高いところまで浸かったかが分かります。普通、JR の線は台風が来てもなかなか浸からないと言いますが、ここは見事に JR の線が浸かりましたし、10 号線も見事に浸かりました。ここに霞堤があって、ここに開口部があり、ここから水が流れ込んできます。



いのものが 2 本立っている状況です。(20:42)これが人間です。私が昭和 18 年 10 月生まれですが、私が生まれる 1 か月前に大きな台風が来たと親から聞いていましたが、この時の水位がここだったそうです。平成 9 年はこれを超えてもっと上まで浸かった。住民は高台に住んでいましたが、その高台の屋根の上に避難している写真です。以下に高いところまで浸かったかが分かります。普通、JR の線は台風が来てもなかなか浸からないと言いますが、ここは見事に JR の線が浸かりましたし、10 号線も見事に浸かりました。ここに霞堤があって、ここに開口部があり、ここから水が流れ込んできます。

北川の激特事業をやるという時に、その前から河川生態学研究会という組織が平成 10 年から動いていました、(後にそれらしい方がこられていますね。(虫明先生のこと))「あなたも入って」と言われて、私はそれまで河川環境を研究したことがなかったのですが、いろいろ勉強しなければいけない事があって、入ることになりました。草が洪水の時にどうやって剥げていくかの研究をすることになり、そのためには土砂がどのように動くかのデータをもらわないとできないことに気づいて佐賀大学の渡邊先生にお誘いをし、いろいろ解析をやっていただきました。平成 9 年に 5067t という大きな水が出たときの解析の結果が今お見せしている図です。

これは北川が連続堤で繋がっているとした場合の各地点の流量です。役場のある熊田が 5067t なのでそれより下流にある地点はピークがなだらかになってくるので、流量が変わって下流に行くほどピーク流量が小さくなっています。一番上流の家田の霞堤の前面が連続堤では 5010t です。霞堤が一つだけだとそれほど効果がないのですが、6 つ揃うと

## 北川霞堤群の治水効果

### ・佐賀大渡邊教授の解析結果

	流量 (m³/s)			水位 (m)		
	連続堤	霞堤	低減量	連続堤	霞堤	低減量
家田	5010	4790	220 (200)	11.38	11.17	0.21 (0.17)
本村	4990	4730	260 (240)	10.06	9.86	0.20 (0.17)
的野	4960	4710	250 (220)	9.75	9.53	0.22 (0.18)
俵野	4940	4690	250 (210)	8.88	8.67	0.21 (0.19)
須佐	4930	4660	270 (220)	6.93	6.81	0.12 (0.11)
差木野	4890	4590	300 (230)	5.71	5.6	0.11 (0.11)

内は家田地区単独設置の効果

家田地区の効果は大きい

家田地区以外での効果は小さく

単独では効果を期待できない

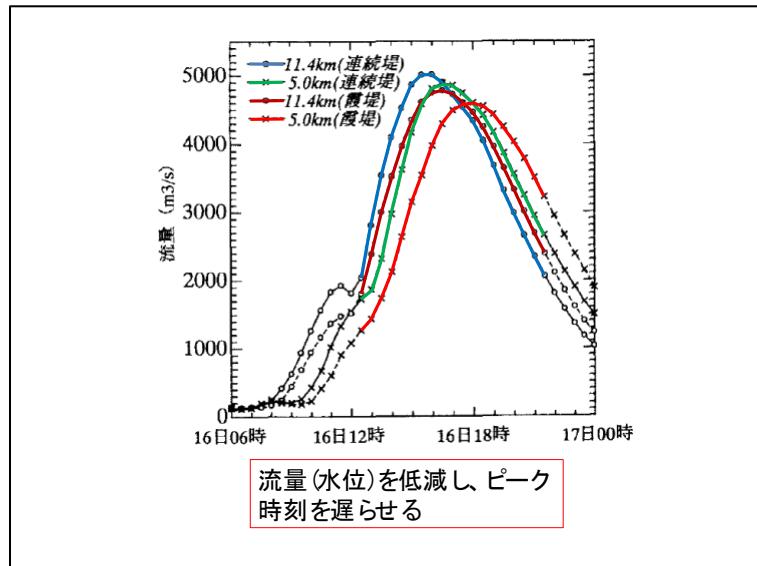
見事に調和がとれて全線にわたって効果が出ます。家田の開口部で 4790t ですから、大体 220t の低減効果がある。一番下流の差木野では 300t の治水効果があります。流量がこれだけ変わると当然水位も下がって、治水安全度が高くなってしまいます。変わるのは流量だけではありません。

右図は、横軸が時間で縦軸が流量を示したものです。連続堤の場合の家田の開口部の流量が青の線です。霞堤がある場合はこの赤の線になります。当然流量が下がりますが、それだけではなくてピーク時間が後ろにずれています。ピーク時間が後ろにずれることは、それだけ準備する時間ができることになるので、このことは重要だと言えます。流量と水位を低くしてピークを少し後ろに遅らせてできるだけ準備する時間を稼ぐことができます。下流になると、もっと遅れ時間が大きくなるという結果が得られています。渡邊先生は「300t しか治水効果がない」と心配されておられましたが、私は「300t はものすごくでかいですよ」と申し上げました。

実は大淀川も整備計画ではダムで約 1000t のピークカットをすることになっているのですが、まだ 500t しかできていません。右の表は整備計画を完全に終了した時のカット流量だと見てください。

右表に各河川の調節量を載せています。今どの程度できているか私は理解していません。例えば白川は立野ダムが整備計画に載っていると思いますが、あれだけ大きなダムを作つてもカット量は 400t です。矢部川で 500t、筑後川は当然 4000t という非常に大きな値になっていてダムで治水を行うことになります。これから考えても、6 つの霞堤で 300t というのは結構大きいなと思います。渡邊先生には「300t で十分ですよ」と言ったことを覚えています。

この図は、平成 9 年の洪水で浸水した区域を青で示したものです。ここに旭化成のダイナマイト工場があって、その被害が非常に大きかったので被害資産額としては大きなものになり、ベネフィット B (利益) を稼いでくれたため、治水効果としては大きなものになりました。水に浸かった所はほとんど霞堤区間なので被害を計算しても大きな値にはなりません。それをお見せしようと思ってこの図を持ってきたのではなくて、実は平成 9 年の洪水では 2 か所で破堤しています。霞堤は乗り越しをすることが前提になっているので、普通の土の堤防ではありません。普通の土の堤防だとついこの間の鬼怒川堤防のように、越流したら瞬く間に壊れてしまいます。ここでの霞堤はある程度の区間はコンクリートでかぶせておきその上を土で覆って、いわゆる隠し護岸がほとんどできていた区間です。にもかかわらず、2 か所で



## 整備計画での洪水調節施設の洪水調節量

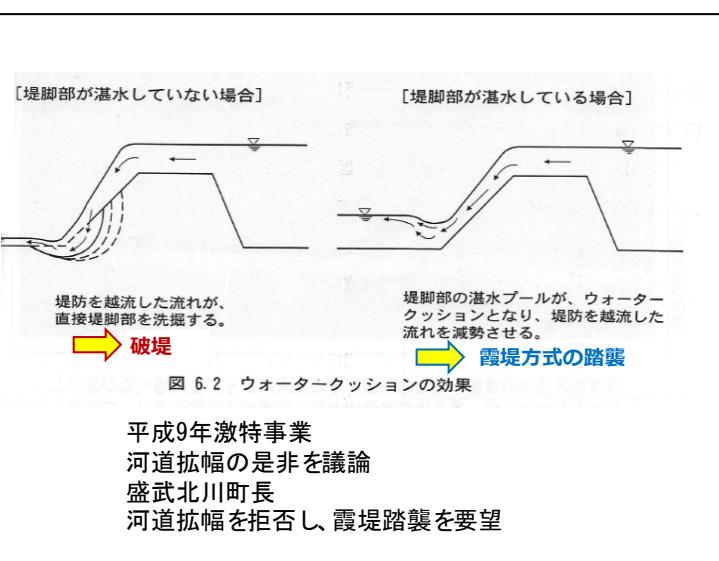
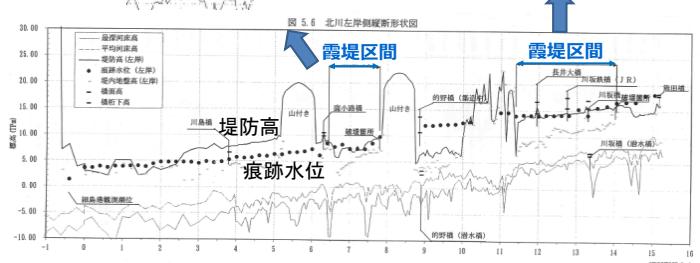
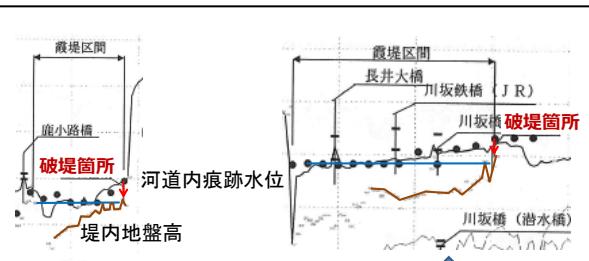
	基準地点	基本高水流量	調節量
緑川	城南	5,300m³/s	1,100m³/s
白川	代継橋	3,400m³/s	400m³/s
大淀川	柏田	9,700m³/s	1,000m³/s
筑後川	荒瀬	10,000m³/s	4,000m³/s
嘉瀬川	官人橋	3,400m³/s	900m³/s
矢部川	船小屋	3,500m³/s	500m³/s

堤防が壊れています。破堤していたところは、一つは差木野の一番の上流端になります。この場所は、家田の霞堤の一番上流端になります。

余談になりますが、この間まで本省の河川局長をやられていた池内さんが、この時はリバーフロント整備センターに出向されていて、この北川の川づくりは池内さんがいろいろと采配を振るってやられた事業です。彼の業績の一つに数えても良いのではないかと私は思っています。

この黒い点が、調査した痕跡の水位です。この実線が元々あった堤防の高さです。当然、堤防より高いところもあれば、低いところもあります。堤防が壊れた箇所はこことここですが、ここを抜き出します。霞堤は下流側から溢れます。川は流れていると勾配がありますが、水は溜まるだけなので水位（水面）は水平になります。おそらく、霞堤はこのような面だったのだろうと推測できますが、一方、川の方は痕跡がありますので、これだけの水位で乗り越していることが分かります。こちらも抜き出してみるとこの線が霞堤の中の面で、河道の中はこのような痕跡ですから、ここでもこれだけの高さで乗り越して、ドンと落ちているわけです。水が落ちるとどうなるかというと、この間の鬼怒川の堤防もそうですが、堤防の上を乗り越してくると裏側の面をだんだん削って、一気に堤防が破壊します。ここに水が溜まっているとクッショングの役目をしてくれます。このクッションの働きで洗掘が少しあげ減ります。このようなウォータークッショングの役目を霞堤を乗り越した水が果たします。このようなウォータークッショングの役割を果たしたところは破堤しないで済んでいます。一番上流のウォータークッショングがない場所で水が落ちて破堤したのではないか、と考えています。

「やっぱり霞堤はありますよね」と県が北川町に持つて行ったら、「分かった」と言われたそうです。他の選択肢としては、一番苦労した河道拡幅の部分をいかに少なくするかということになる訳



ですが、そのことを一番理解しておられた方が首長さんにおられたので、霞堤が採用されたと思っています。

北川の河川改修の基本方針は、次の4つです。平成9年の夏に河川法が変わります。その後の9月に台風がやって来ました。その時点で大規模な河川改修をしなければならない訳です。国としても、河川法を変えた後の川づくりは北川が最初でした。方針としては、当然①流下能力を確保するが出ますが、同時に②霞堤方式の踏襲することも決めました。また、河川環境が法の目的の中に入りましたので、③河川環境への影響の最小化が方針として入ります。具体的にどうやるかについて、当時はありませんでした。変な言い方をすると、「どうやるかの具体的な方針がないのによく河川法を変えたな」と私はびっくりしました。北川の川づくりの検討をするときにいろいろ議論するのですが、どうやったら良いかの明確な答えが出てこないのです。結局、「試行錯誤をしてやりましょう」ということになるのですが、それと引き換えにモニタリングを実施して、悪いということがあつたら計画論までさかのぼって改修方法を変えようということで合意ができ、事業が進みました。その中の一つが、先ほどの航空写真でもお分かり戴けると思いますが、水辺に河畔林があります。河畔林が残っていて、内水面漁業の人たちをそれを残してくれと言われるわけです。河畔林が「つき林」の役目をしている所、町のお祭りに河畔林の枝を使用している所とか、大事そうなところはきちんと位置づけをして、できるだけ残そうということにしました。そのような平成9年の北川の大きな災害の一番大きな原因は、川の中の木が茂りすぎていたことにありました。平成9年の前10年間はあまり大きな雨が降っていません。その間に川の中の植生がものすごくはびこってしまいました。中には柳とかの自然林もありますが、植えた杉の林もありました。解析をしてみると、そのようなものが河道阻害を起こして水位をものすごく上げてしまつて越流が起つたことが理解できる訳です。治水を行うにはそのようなものを撤去する選択肢が残ってきます。そのような状況でもできるだけ河畔林は残すようにしようということにしました。

断面が足りないと結論を出ますが、川幅を広げるという選択肢はありませんので、河道を掘削しようということになります。川を掘ることになると、川に生きている生き物に悪さをする可能性があることになります。そこで基本方針として、「低水敷はいじらない。普通は水が乗らない高水敷を掘削する」ことを決めました。掘削をすれば生き物への影響は当然ありますが、より影響が少ない方を選択して、水の流れる断面を大きくしました。

北川の川づくりは全て住民の方にオープンする方式で実施しました。おそらく、オープン形式でやった先駆けの一つだったのではないかと思います。その中で住民から言われたのは、「霞堤で遺すのは良いが堤内地にゴミが入ってくる。ゴミをどうにかしてほしい」ということです。そこで、霞堤の開口部に竹林などのスクリーンの役を果たすような植生を置いて、できるだけゴミが入ってこないようにすることで合意を得て実施しました。

## 北川激甚災害対策特別緊急事業

### 北川の川づくり

平成9年の河川法改正後の自然環境を保全しつつ治水機能の向上を図った最初の事例

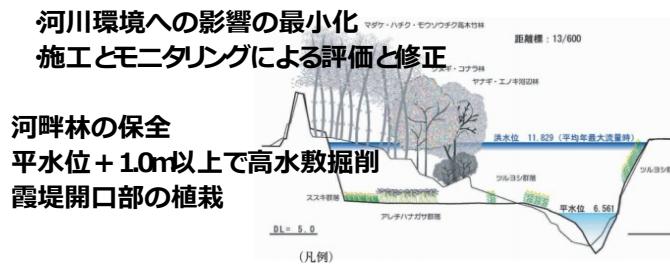
### 河川改修の方針

流下能力の確保 河道断面の拡大)

霞堤方式の踏襲

河川環境への影響の最小化

施工とモニタリングによる評価と修正



### 河畔林の保全

平水位 + 1.0m以上で高水敷掘削

霞堤開口部の植栽

(凡例)

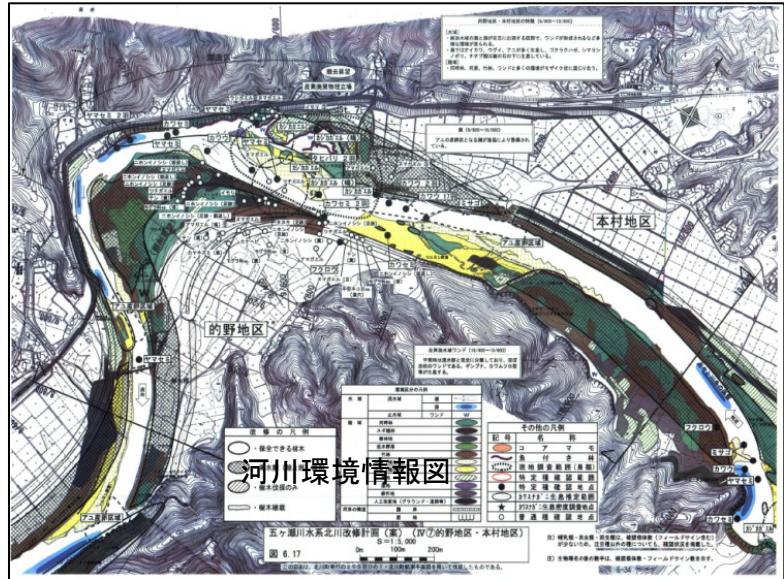
生き物がどのように生き、どこで産卵し、鳥がどのように飛んでくるのかなど、いろいろな調査をやりましたが、当時は、鳥は鳥、植生は植生、魚は魚の情報図が出てきます。10数キロの河川改修を、それらを横目で見ながら、どのようにするかを議論するのは無理なのではないかと考え、この箇所はこの箇所で1枚で分かるような図を作ってくれと事務局にお願いしました。次の回に出てきたのが右の図です。現在は、改修計画を作る際に全国で使われている河川環境情報図です。北川が最初です。玉井先生は、「北川より先に作っていた」と言われますが、方針は北川が最初だったと私は思っています。この図を見るとどこに土があって、どこに鳥の糞があって、どこに魚がいるかといった細かい情報図になっています。この図を見ながら「ここを掘削しなければいけないのだけど」といった議論をして計画を練り上げました。

これは宅地嵩上げをやっているときの図です。家を持ち上げ、下に土砂を入れる工法を用います。

激特の事業効果について考えてみると、平成9年に5067tの出水が起り、平成16年にはほぼ同じ規模の4800tの水が流れました。赤が平成9年で、青が平成16年の出水を示していますが、見事に下ってくれています。

「治水効果があったな」と感じました。まだ工事途中でしたが宅地嵩上げをやっていましたので浸水家屋数が軒並み減っています。家田は宅地嵩上げが進行していませんでしたのでそれほど大きく減っていませんが、本村地区は、100戸あった浸水家屋が25戸に減っています。「大きな治水効果があつてよかったです」と思っています。

北川は住民が洪水と共生している全国的に珍しい模範事例ではないかと、私は思っています。ダムは、当然治水効果、利水効果を



## 水防災対策特定河川事業 宅地嵩上げ

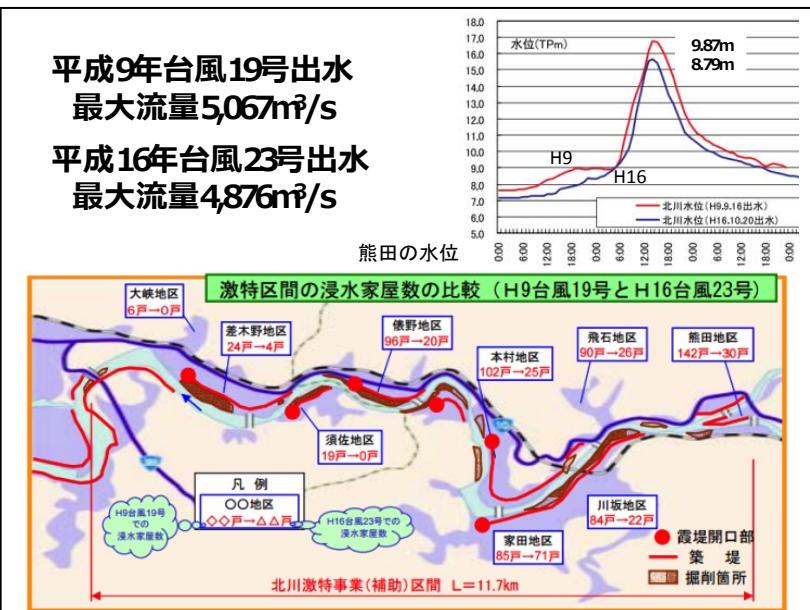


災害危険区域指定



### 平成9年台風19号出水 最大流量5,067m³/s

### 平成16年台風23号出水 最大流量4,876m³/s



発揮しますが、河川環境への影響は避けられません。数年前に国総研から、ダムで土砂の流出が止められることによる影響に関する報告書が出ました。そのようなことがきちんと位置付けられる世の中になったなと感じています。

連續堤を土で作ると鬼怒川の破堤のような例が当然起りますが、住民の方は不思議なことに「堤防で守られているから安全だ」と思つておられる。宮崎で平成17年に大きな洪水が起きたときに行ったヒアリングでも「ここはもともと堤防があって大丈夫な場所だったんだけど、浸かったのです」と言われる。私達からすると「堤防で守らないと住めないとあなた方は住んでおられたんですよ」とここまで出かかっているんですが、そこまでは言いませんでした。やっぱり、堤防で守られているという安心感で生活をされていると、水が上がって避難勧告、避難指示が出ても逃げないという悪循環が起こっているではないかと私は思っています。霞堤の場合、水が上がれば確実に田畠の中に水が入ってくるし、下手をすると家まで浸かることになります。水のことをひしひしと感じて生活をしておられるということが違うのではないかと思います。もう一つは、避難勧告、避難指示を出すのは市町村ですが、残念ながら市町村にはこのような洪水、治水に関する深い理解が浸透していませんので難しいところがあります。また、ホットラインも引いているはずですが、鬼怒川のように市町村の態度が悪い、と言ったことがあるのではないかとおもいます。住民と行政の両方の意識改革が必要で、北川を真似するような生活をするのが本当は良いのではないかと思っています。

以上で荒牧先生から受けた難しい主題を逃げさせていただきたいと思います。長い時間、ご清聴有難うございました。

## まとめに代えて

- **北川は住民が洪水と共生する模範事例**
- **ダム方式の限界 河川環境への影響**
- **連續堤方式の限界 鬼怒川の破堤**
- **水防法の矛盾 避難情報の発令**
- **行政と住民の意識改革が必要**

## 基調報告 2

### 「九州主要河川の防災・水利・環境歴史遺産に関する基礎調査」について

荒牧 軍治 NPO 法人嘉瀬川交流軸 理事長

杉尾先生から、「我々はなぜ歴史を学ぶのか」についてのお話を聞きしました。現在我々が採用している連続高堤防方式だけでは解決しない事例と、それを解決する方法を示していただきました。

私は、河川の専門家ではありませんので、技術的な視点より人に興味があります。私たちが大学の時にならった人物たちとしては、こんな人たちが思い浮かびます。(48分) 黒田如水、成富兵庫、加藤清正、丹羽頼母、石黒五十二らはいずれも九州、筑後川にゆかりの人たちです。黒田如水は武将としてむしろ水を攻撃に利用した人ですが、成富兵庫茂安と加藤清正是武田信玄の思想を引き継いで、お互い影響しあい、高めあっていますし、非常によく似た手法をつかっています。

我々がなぜ彼らを学ばなければいけないかというと、我々が使っている連続高堤防方式いて、今回の鬼怒川のように、あるレベルを超えるドンとやられてしまうので、おとなしく受け入れる方法はないかと探しているときに、彼らの治績が参考になるのではないかと考えているのです。

佐賀でもその手法を模索しています。例えば城原川には今でも野越しが残っています。その野越しの技を治水計画にどう組み込んでいくかを考えなければいけないので、歴史的な技術を学ぼうとしているのです。その一つの答えが今日の杉尾先生の講演の中に述べられていました。丹羽頼母は90以上まで生きた久留米藩の治水家ですが、彼と成富兵庫はどのように向き合っていたのか、どういう手法を用いたのかというのも非常に興味深いテーマです。

ここに石黒五十二の名前を挙げています。我々はデ・レイケ導流堤と呼んでいますが、どう考えても「石黒導流堤」と呼ぶべきではないか、歴史を修正したいとの思いで、名前を挙げています。それ以外にも無名の人たちが数多くいるはずです。例えば石工さんは非常に重要な役割を果たしているはずですから、石工集

#### 「水」と聞いて思い出す人々

##### 歴史上の人物

武田信玄(1521) 豊臣秀吉(1537) 黒田如水(1646)  
伊奈忠次(1550) 成富兵庫(1560) 加藤清正(1562)  
丹羽頼母(1587) 野中兼山(1615) 河村瑞賢(1617)  
石黒五十二(1855) 田邊朝郎(1861) 八田與一(1886)

黒田如水：御着城(姫路市)→備中高松城攻略(水攻め：土嚢を積んだ船を沈める)  
→城造りの名手→「水5則」

成富兵庫：佐賀龍造寺・鍋島家の着座(家老) 佐賀の水の神様  
治水→千栗土居(筑後川) 松土居(海岸堤防)  
利水+治水 嘉瀬川→石井樋、荒籠、竹林、野越し、水受堤  
城原川→三千石樋、野越し、霞堤  
六角川→大日堰 松浦川→桃川の馬の頭

加藤清正：尾張出身→肥後藩主  
石垣技術の導入 穴生衆(あのうしゅう)→近江大津  
清正堤 遊水地 ぐつわとも(遊水) 杉島どんど(ショートカット)  
石ばね(荒籠) 御船川付替(流路変更)

丹羽頼母：「筑後川と生涯を共にした一大先人」(国交省ホームページ)  
有馬藩普請奉行(38歳) 中流部の治水→霞堤、野越、閉堤  
荒籠→下流部の水運 水深維持と流路固定  
利水：大石堰(1664年)→5庄屋 8kmの水路 藩営事業 総指揮  
1681年95歳で没

石黒五十二：金沢士族→大学南校土木工学科卒(1878)→イギリス留学  
→内務省に出任(1883)→デ・レイケ導流堤の設計  
「筑後川改修並ニ出水防御工事計画意見要略」(1886)  
→海軍省幹・佐世保海軍鎮守府技師→三池港・門司築港工事

##### 無名の人々

算勘の術者 石工(穴太衆) 馬喰 百姓  
筋頭(ふつう)→もやい頭 担子(からみこ)

#### 信玄流

関東流：河川の蛇行、広い川幅、溢流方式

霞堤・野越(乗越堤)で平野に水をあふれさせる

水受け堤・閉み堤で守るべき箇所を守る

##### 流域治水

河川内遊水地 野越・霞堤  
横堤 曲塘(くつわども) 河道付替 大曲り

堤内・堤外全体で洪水を受け持つ

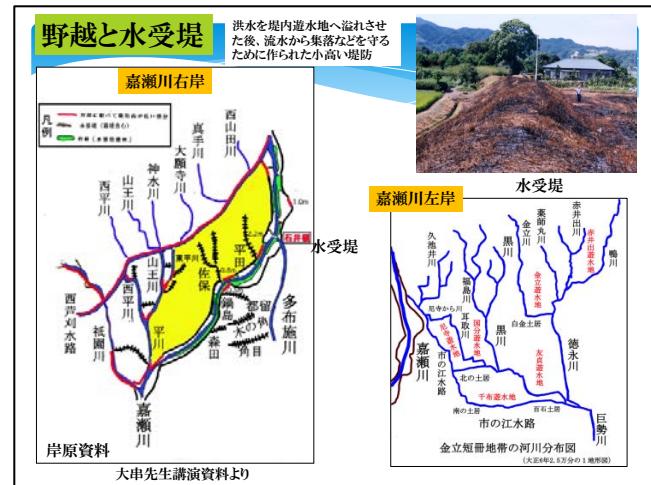
流域治水(平成12年河川審議会答申)に継承



団の技術も勉強したいと考えています。

先ほど、信玄流の話をしましたが、成富兵庫茂安の思想と技術の一例を示したいと思います。この写真は明治以降、多分昭和時代の航空写真だと思いますが、河川に沿って堤防が築かれていますが、ここに乗越堤があり、その横に水受堤が設けられています。水位が上がってくると、乗越堤から平地内上流側に水が上がります。集落は、水受堤の裏側にあります。このことをわれわれの先輩の岸原先生が明らかにされました。右図の赤で示したところが乗越堤の位置で、そこから水が溢れるようになっていて、その横に水受堤が設けられています。現在の嘉瀬川は高堤防で連続していますが、それを超えてきたときに、どのような緩和処置をとるかということを近代的が技術としても考えておかなければいけないのではないかと思っているのです。具体的にどのようにすれば実現可能なのかを勉強しておかなければいけないと思っています。

次に、利水の話に移ると、右の図は、成富兵庫茂安が用水を確保するための作った仕組みの一例です。一番強調したいことは、「今でも使われている」ことです。



佐賀のような例がそれぞれの河川に数多く残されているはずなので、それを勉強して、皆さんで共有しませんかという提案をしました。3年間の計画になっていて、今年は河川施設を調べて戴けませんかという企画です。先程は霞堤の例を示していただきました。他にダム、遊水地などもあるでしょうし、後に講演していただく石碑群調査などもあると考えています。

次年度は、神話や宗教、芸術といった視点から災害調べて戴けませんかと提案しています。

さらに3年目には河川に関連した生活の歴史を調査してみたいと思っています。私が感動したことを述べてみると、大川の民謡教室の方々と日田に出かけたことがあります。

## 「九州主要河川の防災・水利・環境歴史遺産に関する基礎調査」

### 歴史遺産：「28年水害までは入れましょう」

#### 調査は3年計画→ 年度ごとに報告書

##### ○初年度「河川施設」

- ・災害の歴史を示す石碑群の調査
- ・河川堤防・海岸堤防・ダム・遊水地等、地域に残る防災施設群の調査
- ・ため池(ダム)・井堰・水路・堀などの利水施設群の調査
- ・舟通し・閘門・蛇行させた川・背割り堤・ドッグ等の舟運関連施設群の調査

##### ○2年度「河川災害・環境・文化の歴史」

- ・神話、民話、神社・仏閣、宗教(興止日女神社、えびす信仰)
- ・絵画、音楽、和歌・俳句、小説等の芸術作品、
- ・28年大水害、シーボルト台風等の災害の歴史
- ・特徴のある植生、貴重種、水生生物、

##### ○3年目「河川に関連した生活歴史」

- ・筏下り、コツコツ節(民謡)、アユ簗、日田杉(日田地域を例に)
- ・治水家(成富兵庫茂安・加藤清正・五庄屋)、技能者集団(石工)等の人物群像
- ・農業水利システムの変遷
- ・生活の中の祭り、

その中の女性の方が、「大川ではあんなにかわいい鮎が、日田でこんなに大きく育っていたのね」と感動されていたのを覚えていますし、筏下りが降りてきたとき、大川の娘たちが着飾って川に出かけてきたという話などは、貴重な歴史を示す逸話なので是非記録して戴ければと思います。

「川が好きです」「川の歴史を伝えていきたいです」と言った気持ちを、何でも構いませんので記録して戴ければ幸いです。このような提案をしたのですが、意外とノリが悪かったので驚いています。ノリの悪い原因は多分、私が「4ページ又は6ページの報告書を書いてほしい」と言ったことにあったと思います。私たちは何気なく文章を書きますが、皆さんにとっては「調べるのは楽しい」が「論文を書くのは大変」ということのようですので、少し条件を緩和しようと考えています。

この調査プロジェクトに参加して戴いて、その調査結果を次の世代に繋いでいきたいと考えています。

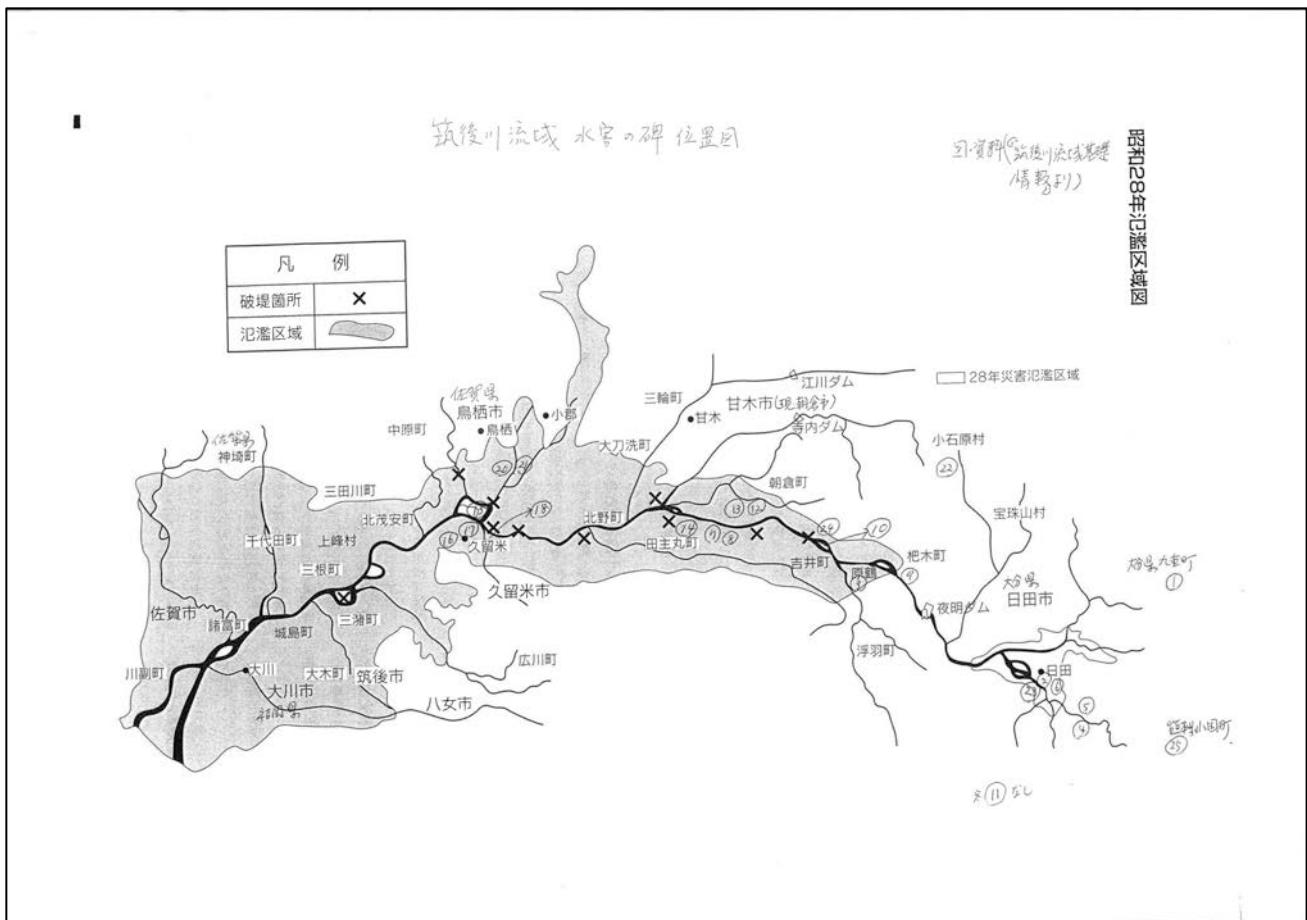
基調報告 3

## 「筑後川の碑」調査報告

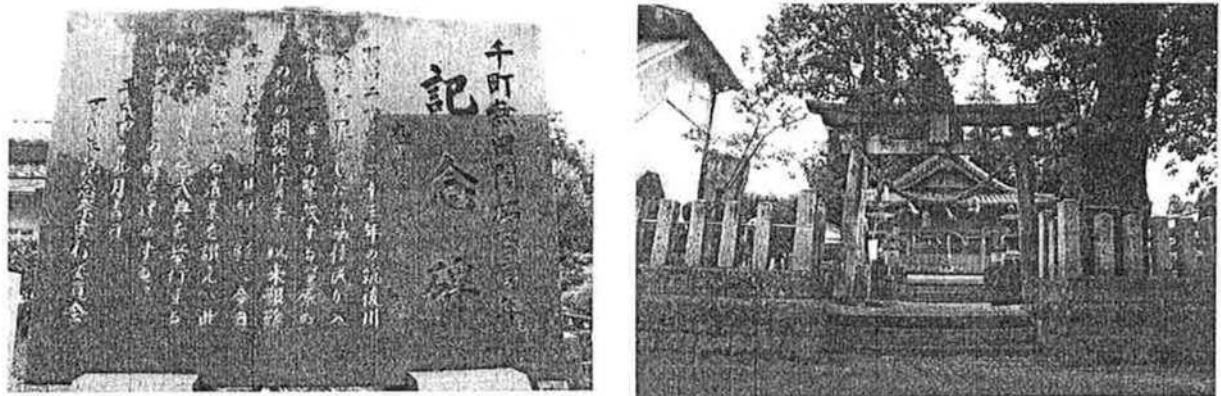
古賀 邦雄 古賀河川図書館館長

古賀です。よろしくお願いします。資料は、A3 の筑後川流域水害碑位置図と具体的な水害調査結果です。資料が皆さん全員に渡っていないかもしれません、申し訳ありません。

筑後川は延長 433 km、流域面積 2860km<sup>2</sup>ですが、福岡、熊本、大分、佐賀にまたがっていて、色々な形で皆さん的生活に影響を及ぼしています。最後の資料に筑後川の水資源の一覧表で出していますので、ここに江戸期からの水資源開発、明治期、大正期、昭和初期、昭和中後期、平成期と一覧表にしています。この中で水害については明治 22 年筑後川大水害、大正 10 年の筑後川大水害、昭和期の昭和 28 年の筑後川大水害、それから平成 23 年の筑後川流域風台風、平成 24 年 7 月の九州北部豪雨などの水害が起こっています。その災害についての碑があるかについて説明をさせて戴きます。



この文献は久留米大学の筑後川特集に示したものですが、先ず、91 ページをご覧下さい。ここに明治 22 年の水害の碑が大分県九重町に「千町無田開拓百周年記念碑」として残っています。明治 22 年 7 月に大水害が起こって大きな被害を受けた久留米市の農民の方が久留米藩士の青木牛之助に引率されて九重町の千町無田に移転をされて開拓したことを記した碑が朝日神社の中に立っています。明治 22 年 23 年の水害で被害を受けた農民がこの地に入植したことが記されています。



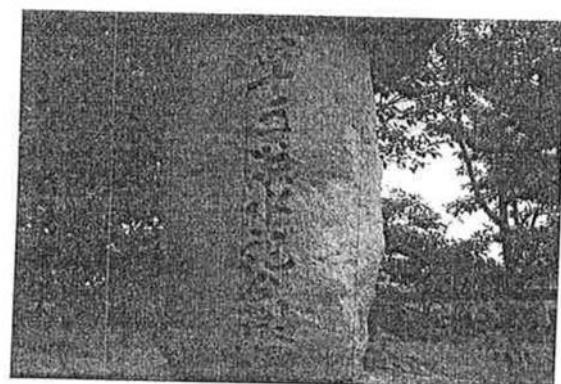
千町無田開拓百年記念碑（九重町田野）

次に 93 ページに移ります。大分県日田市の銭ヶチ橋のちょっと上流の右岸に、「御靈木の由来」という碑が建っています。これは水害の時に靈木にしがみついてたすかったということが記されています。



御靈木の由来の碑（日田市若宮町）

94 ページは、長野神社にある大正 10 年の水害の碑を示したものです。大正 10 年の水害の碑はそれ程多くありません。

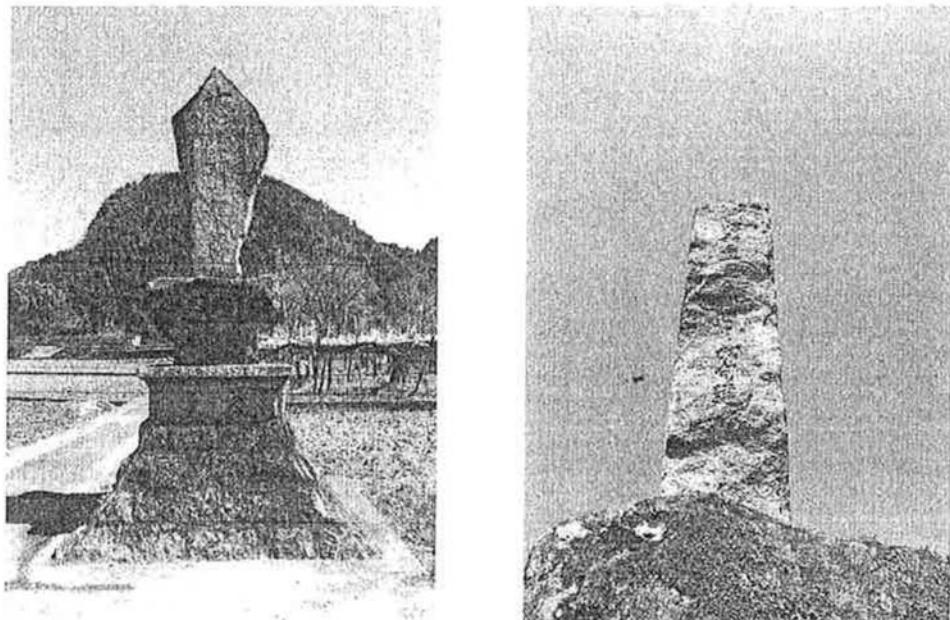


大正十年洪水記念燈（うきは市櫻井）

95 ページ以降は昭和 28 年大水害の碑を示したものです。上流の方から見ていくことにします。最後のページを開いて下さい。ここに湧蓋山津波の記があります。北里柴三郎記念館の正面に丁度湧蓋山が見えます。記念構えの田んぼにこの記念碑が建っています。内容は昭和 28 年の水害を示したもので、3

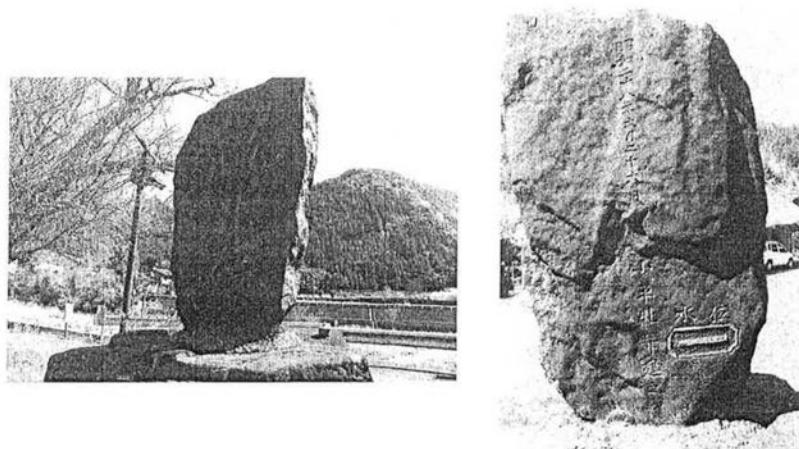
名の方が亡くなつておられます。

元に戻つて 95 ページを開いて下さい。日田市の大山町鎌手に大水害復旧記念碑が建っています。碑銘は衆議院議員の廣瀬正雄さんによるもので、建立者は鎌手土地改良区理事長矢幡治美さんです。水害発生後に土地改良区を起こして水田を復旧したことを記しています。



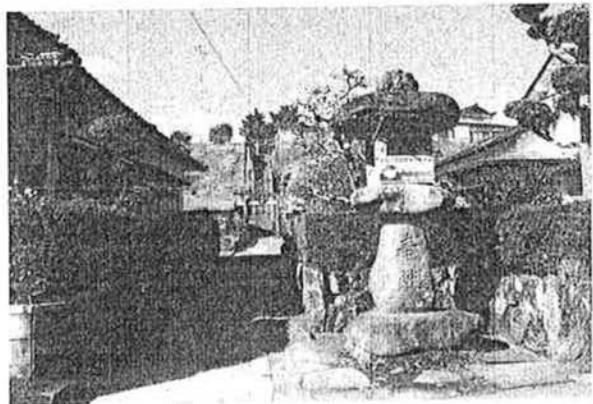
大水害復旧記念碑（昭和 28 年 6 月水害　日田市西大山町鎌手）

次に 96 ページですが、大山町の小平に建っているもので、国道 212 号線小平バス停の脇に立っていますので阿蘇に行かれるとき見てみて下さい。



洪水碑（昭和 28 年 6 月水害　日田市西大山町小平）

それからちょっと下つて日田市の高瀬町に水害復興碑が有ります（97 ページ）。国土交通省がカッパの絵を添えて「ここまで水が上がつきましたよ」と示しています。同様の碑が高瀬町のあちこちに建っています。



昭和 28 年の筑後川大洪水（日田市高瀬町）

次は 97 ページ⑦番のうきは市吉井町の江南小学校の四つ角にある水害復興碑です。この碑文をちょっと読んでみると「昭和 28 年 6 月 25 日朝からの豪雨は翌 26 日にいたり、先ず巨勢川、三都留川先ず氾濫し橋梁相次いで流出、大石・長野水道も崩壊し、筑後川恵蘇宿鉄橋また流出続いて・・・・」とあり、泥水が流れました。これに対して土地改良区を起こして復興を行ったことを記しています。

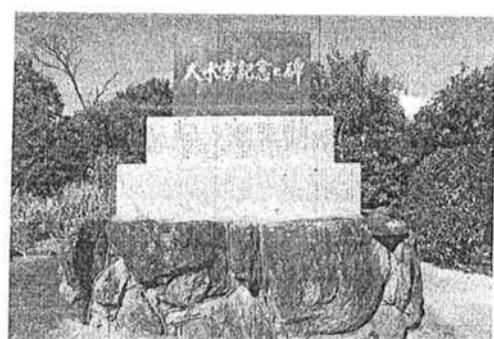


水害復興碑（昭和 28 年 6 月水害 うきは市吉井町江南）

99 ページ、100 ページの碑はいずれも昭和 28 年大水害の復旧記念碑です。



大水害復旧記念碑（うきは市古川）



大水害記念之碑（朝倉市中島）

⑩番は山田堰の対岸の筑後川吉井出張所の前の千年分水路の中島地区に建てられています。この日が建てられたのは昭和 60 年 6 月になってからです。ここには 9 戸のうち 7 戸が流出して 2 戸が全半壊し、死者 6 名を出しています。恐らくここに住んでおられた方が昭和 28 年から 33 年に当たってこの碑を建てられたと思われます。碑は直後に建つのでは無く、地域地域によって若干時間差があります。33 年経って望郷の念が非常に強かったのでは無いかと思われます。

101 ページですが、⑨番は杷木町にある水害復旧碑です。⑩番は最も被害の大きかった朝倉町田中にある復興碑です。

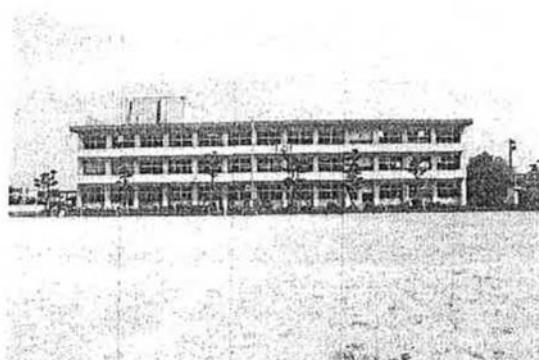
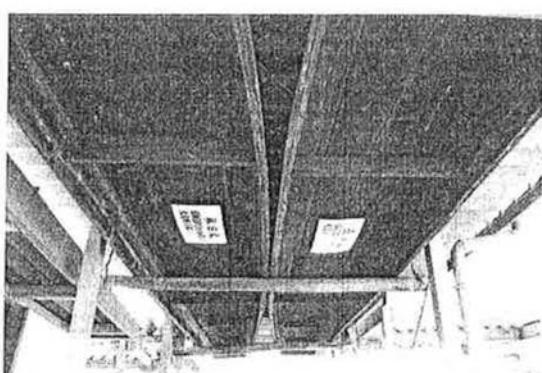


水害復旧費（朝倉市杷木）



復興碑（朝倉市田中・天満宮）

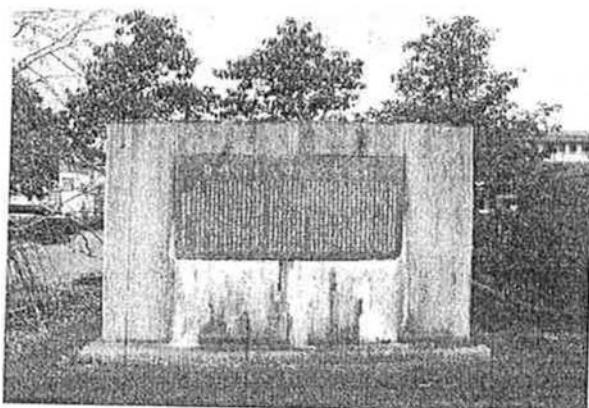
102 ページの⑪番には揚げ船を挙げています。これは蟠城（ひなしろ）小学校の体育館の横に、2 つ揚げてあります。教育的な考えもあって「水害を忘れない」ために設置されたものと思われます。昨日久留米市に行ったときに立派な揚げ船が飾ってあり、ちょっとびっくりしました。



揚げ船 林田丸・長田丸（朝倉市林田 蟠城（ひなしろ）小学校内）

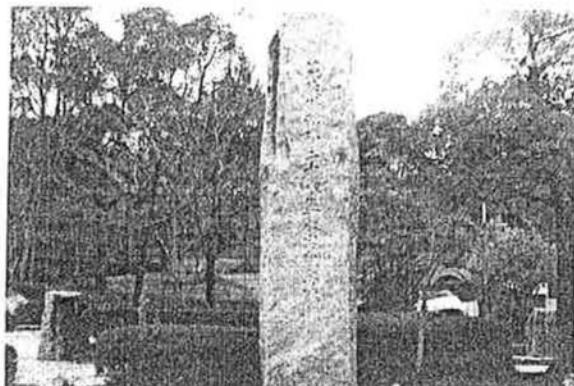
104 ページの⑫番は、筑後川河川事務所の中にある筑後川災害復旧記念の碑です。この碑は工事終了直後の昭和 30 年 3 月 31 日に建てられていますが、九州地方建設局筑後川工事事務所長田中寛二さんが復旧のために非常に苦労したことを縷々述べられています。折角このような碑が建っているので、私は

毎年この碑の前で、後世に語り継ぐために記念行事をやる必要があるのでは無いかと思っています。



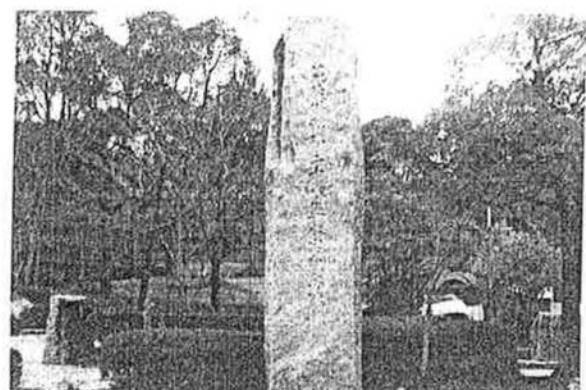
筑後川災害復旧記念の碑（久留米市高野 筑後川河川事務所）

106 ページの⑯番ですが、これも同じように筑後川工事事務所長の松浦哲さんが建てられたもので、昭和 58 年に建立されています。水害が昭和 28 年ですから 30 周年を記念して、久留米市中央公園に建てられています。碑は災害直後に建つのではなく、10 周年、20 周年 30 周年といった記念の年に建てられることも多いようです。



昭和 28 年筑後川水害記念碑（久留米市中央公園）

109 ページには、東櫛原引堤完成記念碑を示しています。この碑は、久留米大橋の南側、左岸側に建っています。昭和 28 年の水害を受けて、昭和 41 年から続けていた川幅を拡げる工事が完工したことを記念して建てられたもので、当時の所長名吉村佐さんの名が記されています。



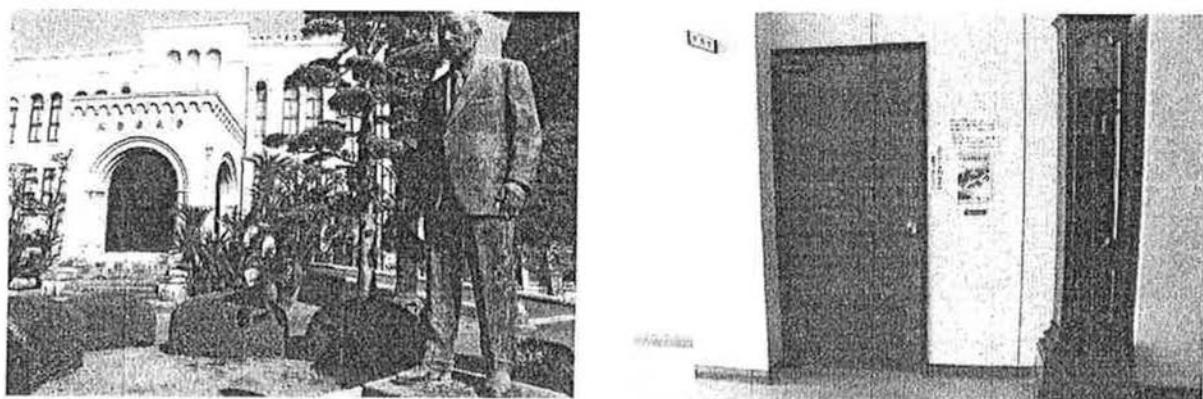
東櫛原引堤完成記念碑（久留米市東櫛原）

110 ページは、くるめウス内にある「“巨大” クスノキ現る！」です。チャンスがあったら一度覗いてみて下さい。



“巨大” クスノキ現る！（久留米市合川町（くるめウス内））

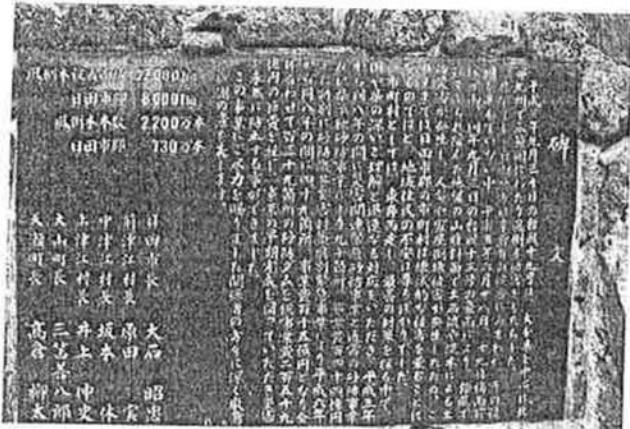
111 ページに移ります。久留米大学医学部の石橋正次郎さんの銅像がある所から 2 階に上がると医学部学長室がありますが、入り口にプレートがあり「筑後川大水害 昭和 28 年（1953 年）6 月 26 日 宮の陣橋上流の堤防決壊により、大学本館、病院本館及びその他の大学施設は、3 日間に亘り水没した。浸水は大学 2 階床上 1.3 メートル、病院一階天井まで達し、大学は孤立状態になった。（下のプレートは水害時の最高水位を示す）」と書かれています。石橋正次郎さんの話をちょっとさせて戴きますと、石橋さんはこの大水害に遭遇しています。この間、タイで水害が起こりましたね。その時ブリヂストンはほとんど被害を受けていません。石橋正次郎さんのモットーは「工場を作る場合は、そこの 100 年の水害の歴史を調べろ」と言うことでした。タイにブリヂストンの工場を作るときにその教えを守ったために水害に遭っていません。2, 3 日は休業したようですが、工場は休みませんでした。ブリヂストンの美術館は、筑後川の堤防より高く作っています。ピカソや青木繁の絵が絶対に水に浸からないように 100 年先のことを考えていたことが窺えます。



久留米大医学部昭和 28 年水害のプレート

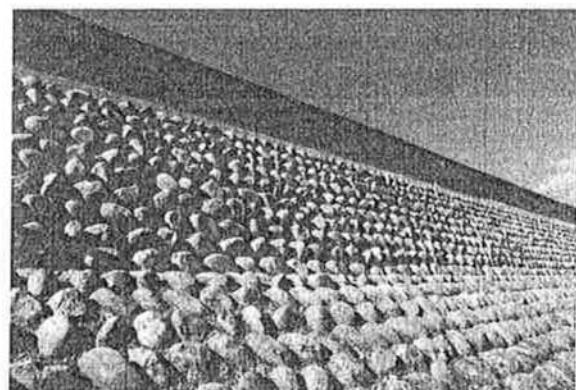
111 ページと 112 ページは佐賀県側になります。宝満川に入る大木川に⑩番⑪番の碑があります。112 ページ⑪番は平成 3 年 13 号台風の風倒木被害碑です。台風 13 号はひどい風台風で大量の風倒木が起こりました。この碑は、日田市子鹿田のバス終点の離合するところに建てられています。この碑の建立者

は大分県知事の平松さん、日田市長の大石さん等の首長さんです。風倒木被害面積 22,000 ヘクタール、風倒木本数が 2,200 万本と相当な被害です。



風倒木対策砂防事業竣工の碑（日田市子鹿田 平成 3 年台風 19 号）

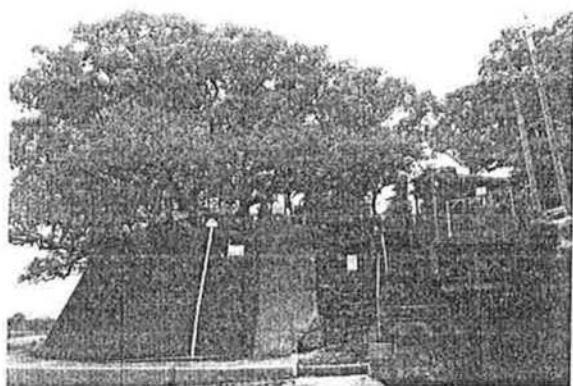
3 年前の平成 24 年（2012 年）の九州北部豪雨水位の碑が 115 ページの②番で、日田市高瀬本町の三隈川の護岸に建てられています。このように九州北部豪雨最高水位が刻まれています。このような形で残しておくことは後世に有益であると思います。



九州北部豪雨最高水位の碑（日田市高瀬本町三隈川護岸 平成 24 年九州北部豪雨）

116 ページの④番は、同じく平成 24 年 7 月の九州北部豪雨最高水位が山田井堰の事務所横の階段の所に設定されています。最高水位高が 6m85cm、標高が 29.93m です。昭和 28 年の水害の時、瀬の下で 8m 位だったと思います。この時 6m を越えたので、事務所は戦々恐々としていたようです。もうちょっとで土地改良区の事務所が流されるところでした。このような形で残しておくことは必要だと思います。

最後に、筑後川の流域を歩くと様々な碑に出会います。「碑の建立は、先人たちが後世に遺すために刻まれたものである。それは、一つ一つその時代の筑後川の文化と歴史を物語っており、真実の記録でもある」。やはりその時々にこのような碑を遺しておくことは、その時々の人たちが真実の記録を後世に残しておきたいとの気持ちが表れます。



九州北部豪雨最高水位 筑後川（朝倉市山田・山田井堰取水口）

水害の碑の他に筑後川流域には色々な碑があります。筑後川源流の碑、農業用水開削の碑、ダムの建設碑、望郷の碑、水力発電の碑、殉職の碑、日本住血吸虫の碑、渡しの碑、文学の碑、川茸・万能ねぎの碑などがあります。先人の知恵を知り、より良い筑後川をみんなで作りあげることが大事であると思います。

## 「佐賀県内の碑」調査報告

本山 和文 佐賀県防災士会

はじめまして、佐賀県防災士会の本山です。このような場で発表させていただいて感謝いたします。今回は、佐賀県防災士会が平成 26 年度事業として取り組んだ「佐賀県の災害歴史遺産調査」について報告したいと思います。災害に関する石碑については先ほど古賀先生から筑後川周辺の調査結果のお話がありましたが、私たちは佐賀県全域で石碑だけでなく広い意味での災害歴史遺産の調査を行っています。佐賀県内全域を対象としたこのような調査は今回が初めてだと思っています。今

日は、災害歴史遺産調査の一部を紹介したいと思います。今回は河川災害を紹介しますが、この調査は河川だけでなく様々な災害に関して調査を行っています。私たちは全体を災害歴史遺産と呼んでいます。「過去の歴史や教訓を今に伝えているもの」を対象とします。例えば災害復旧記念碑、慰霊碑、顕彰碑などのモニュメント、そのほかに災害遺構も残っています。さらに、災害の伝承が残る神社仏閣、仏像などもあります。これらをひっくるめて何と呼ばうか一生懸命考えた末に「災害歴史遺産」と呼ぶことにしました。ただし今回は、

絵画、写真、書籍、文書は対象としていません。また自然災害の中の干ばつ、飢饉と言ったものも対象としていません。これらについては今後の調査課題にしたいと思っています。調査の結果、現在までに確認したのは 14 市町、77 箇所（基）です。同じところに 3 つくらい並んでいるものもありますが、それは 1 基と数えています。調査した範囲はほぼ全県にわたっています。

この調査をする意義を考えて見ます。調査をしていると碑文に「未曾有の災害」「前代未聞」といった言葉がよく出でてきます。その場に災害歴史遺産があるということは、それまでに経験したことのないような大きな災害がその地で起きた、すなわちその地が持つ最大のリスクを表しているのではないかと思います。災害はこれまで同じ場所で同じような規模で発生しています。昭和 20 年の災害を受けた同じ場所でまた昭和 24 年にジュディス台風で被害を受けています。今

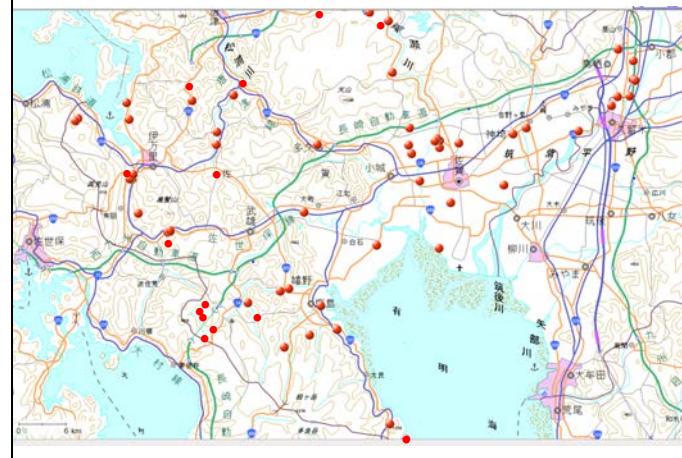
### 災害歴史遺産とは？

災害の歴史・教訓を伝えるもの

- 災害復旧（復興）記念碑、慰霊碑、顕彰碑等
  - 災害遺構
  - 災害の伝承が残る神社仏閣・仏像など
- ※絵画、写真、書籍、文書は対象としていない。  
※干ばつ、飢饉、虫害、疫病、石炭鉱害等は除く。

現在、現在 14 市町 77 箇所（基）

佐賀県災害歴史遺産 位置図



### 災害歴史遺産調査の意義

- 災害歴史遺産
  - = 地域の抱える潜在的な災害リスク
- 近年の想定外の災害の多発
  - ⇒ 潜在的リスクが顕在化する恐れ
- 地域の抱える災害リスクを認識すること
  - = 地域防災の出発点

日防災工事が進んで来て、災害の頻度は少なくなっていました。ところが最近「時間雨量100mm」と聞いてもあまり驚くかなくなっていました。地球温暖化の影響でそのような想定外の大雨とかスーパー台風と言ったものが襲い掛かってくる恐れがあります。地理的条件、地域的条件が変わらない以上、こういった潜在的災害リスクが再び顕在化する恐れがあると思った方が良いと思います。よく地域防災という言葉を聞きますが、地域防災の第一歩は自分たちが住んでいる地域の災害リスクを知ることです。地域の災害歴史遺産から災害リスクを学んで災害に備えて欲しいと思います。

どのようなものが多いかを見てみると、災害別にみるとやはり水害が最も多いのですが、佐賀県内でも豪雪とか地震に関する碑が遺されています。さらに目的別にみると、復旧記念碑、復興記念碑と言った記念碑が最も多いのですが、伝承を伝えるもの、災害遺構も遺されています。

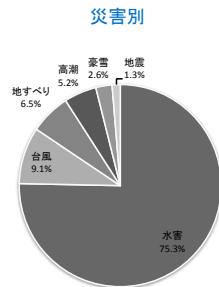
先ず、伝承、災害遺構の例を挙げたいと思います。

先ず、水害に関係するものの県内の分布図を挙げてみたいと思います。水害関係の碑が58箇所立っています。昭和23年9月に豪雨災害が発生していますが、大体この西の方に集中していますし、昭和24年のジュディス台風による災害は、大体県の中部に集中しています。また、昭和28年水害によるものは県内のあちらこちらに散らばっています。昭和31年豪雨は鹿島市、塩田町、太良町のあたりに集中しています。この碑の分布は、その災害によって被害が集中した地域を表しています。

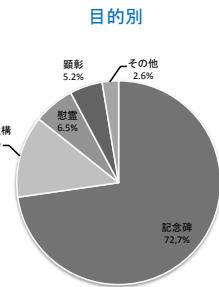
歴史遺産の例を紹介していきます。これは古賀先生からも紹介のあった鳥栖市の酒井東町の昭和28年水位害復旧記念碑です。秋光川と大珠川はさまれた宝満宮の敷地内に建てられています。見て戴きたいのは、水害水位が刻み込まれていることです。これ、結構高いのです。小屋

## 分類別内訳

災害別



目的別



(注)台風による水害・高潮はそれぞれの項目に、大雨による土砂災害は水害に分類

<参考>水害発生年別分布図



水害復旧記念之碑

昭和28年水害

鳥栖市 酒井東町 宝満宮



の屋根位まであります。これは、酒井西町の天満宮にあるものですが、ここにも最高水位が刻んであります。これで見ると「低いな」と思いますが、神社の敷地自体がかなり高いですから、この位置で大体家の軒下位です。

これは神埼市田道ヶ里の大依神社の境内にある災害復旧記念碑ですが、災害復旧の工事が完了したことを記念して建てられています。大依神社は田手川の改修で移転していますので、果たしてこれが昔からここにあったのかは定かではありません。

次は嘉瀬川になりますが、これはご存知の方も多いと思いますが、嘉瀬川河川敷のゴルフ場を跨いで渡瀬橋がありますが、その近くの左岸側にこの碑が建てられています。この碑は石丸久光翁殉職の碑と呼ばれるもので、当時蟻久の区長さんだった石丸久光さんが 28 水の時に堤防の上で水防活動の監督をされていたとき足下から堤防が崩壊して亡くなりました。この写真の奥の方に堤防が見えていますが、このあたりから崩壊したことで、その横に殉職の碑が建てられています。



昭和28年水害 神埼市田道ヶ里 大依天満宮



昭和28年水害 佐賀市 鍋島町蟻久



昭和28年水害 佐賀市 鍋島町蟻久 津留

実はこの時鍋島には大量の土砂が流れ込んで来ました。どれくらい土砂が堆積したかを示す貴重な歴史遺産が残っています。これは同じく蟻久の津留というところにある津留天満宮にあります。津留天満宮はもともともう少し東の方にあり、昭和 28 年の水害で流されています。流された後、この鳥居だけが

畑の中に残っていました。平成 20 年の天皇陛下在位 20 周年にこの神社を再建しようという時に、掘り出して持つて来られました。埋まっていたところの色が違っています。大体 70 cm 位です。言い換えると鍋島の神社周辺は土砂が 70 cm 位堆積したことを示しています。嘉瀬川周辺には昭和 20 年の枕崎台風とか、昭和 24 年のジュディス台風に関する碑が建てられています。

次は嘉瀬川に合流する祇園川沿いにある水害復旧記念碑ですが、これも昭和 28 年水害です。残念ながら碑文は判読困難ですが、幸いにして碑文は三日月町史にきちんと記載してあります。昭和 28 年未明に祇園川の堤防が切れましたが、碑文によると「その惨状は極みに達す。老若男女一丸となって倒れて後止むの固き決断の下、復旧工事にあたる」と示しており、時代を感じさせます。この他祇園川沿いには昭和 24 年のジュディス台風の水害復旧記念碑が 2 か所建てられています。

この他水害に関しては有田川、厳木川周辺には昭和 23 年 9 月水害の記念碑が、塩田川、鹿島川周辺には昭和 37 年水害などの碑が建てられています。

今回は河川に関する災害歴史遺産がメインでしようが、少し離れて災害の伝承とか遺構にどのようなものがあるかを見てみます。近世以降佐賀県に最も多きは被害をもたらした文政 11 年

(1828 年) 今の暦で 9 月 27 日から 28 日に北部九州を襲った子年の大風、別名シーボルト台風と呼ばれるものの遺構、伝承を紹介したいと思います。この台風で佐賀藩では 8200 人から 10600 人くらいの方がなくなったと言われています。その暴風のすさまじさを伝えるものが、嬉野市不動山の丹生神社にあります。今川棚トンネルが掘られていますがその入り口の真下に位置します。嬉野町史による、ここには大きな鳥居があったのですが、文政 11 年の子年の大風でこの鳥居が倒されたというのです。今でもここには鳥居はありません。



水害復旧記念碑

昭和28年水害

小城市 三日月町 道辺



丹生神社の倒壊した鳥居

「子年の大風」(1828年) 嬉野市大字不動山 丹生川 丹生神社



丹生神社の倒壊した鳥居(2)

ここは大体 4～50 cm の直径があります。ここに乗っているのは非常に珍しい肥前狛犬と呼ばれるもので、今コレクターアイテムになっているので盗難が多いのでここでしゃべるのは少し心配なのです。これがすごいのは、何と 190 年間残骸がちゃんと遺されているのです。専門家の方がおられたら、この残骸から、いったいどのくらいの最大瞬間風速で鳥居が倒れるのかを計算できるのではないかと思っています。ちなみにこの研究をされた佐賀気象台の小西達夫先生の論文によると最大風速 55m/s ということですので、瞬間最大風速となると仮に 1.5 倍すると 81.5m/s になります。先月与那国を襲った台風 21 号の 81.5m/s と変わらないことになります。

次は伝承の例を示します。伊万里市の有田川沿いの MR（松浦鉄道）金武駅の対岸に金武の六地蔵というのが建っています。金武神社のすぐ脇です。実は天正 3 年に建てられたと銘がありますから、長篠の戦のころからあるものです。町史によりますと、文久 11 年の子年の大風でお地蔵さんの笠のところまで水が来たという言い伝えがあります。大体 140 cm 位です。ちなみに後の昭和 23 年 9 月の大洪水でも同じところまで来ました。昭和 23 年に

どれくらいの雨が降ったかというと、伊万里の雨量計は流されて分かりませんけど、佐世保で 2 日間で 494mm が記録されていますので、河川の基本が変わっていないとすると、文久 11 年にもそれくらいの雨が降ったことが推定できます。昭和 23 年には有田町のため池が有田川が増水しているので、雨だけだったら文政 11 年の雨の方がすごかったのではないかと思います。

次は木の伝承を伝えるものです。これは皆様ご存知の有田の大銀杏です。文政 11 年の大風は有田大火を引き起こしています。台風当時、有田岩屋蒲池で素焼窯が稼働していました



した。その素焼窯が暴風で飛ばされてその火が有田皿山の有田千軒に燃え広がって全焼しています。今皆様が有田に行かれて伝統的建造物群地区を歩かれる時の建物は全部明治以降です。その時唯一焼け残ったのが大銀杏の下にある池田邸です。説明板によると、銀杏は火を嫌うそうで、火が寄ってくると風を起こして火を寄せ付けないというのです。

有田大火を伝えるものがあります。有田の大地蔵と言います。先ほどの大銀杏から少し降りて来るとドンバイ塀があります。そのそばに三空庵広場がありますが、そこに大地蔵さんがあります。有田大火の際に徳三郎という人が担いで逃げたそうです。担いで避難させようとしたらあまりに重いので「お地蔵さん、おいがかる一て逃ぐっけん、軽くなつてください（私が担いで逃げるから軽くなつてください）」と言ったところ、軽くなつてくれたというのです。この話は伝承だと思ったら、後背の部分にちゃんと墨で書いてあります。「文政 11 年、徳三郎が避難させた」とありますから事実です。なおこの時有田は大洪水にも見舞われています。もし有田の内山を歩く機会があつたら中に道路面よりも家を高くした旧家があります。この時この台風を体験したお母さんが家を建てるとき娘に「家の床面を道路より 1 間くらい高く作るように」と言われた。その言いつけを守った家が一軒だけですが、あります。

このように多くの歴史遺産が遺されていますが、保存状態が良くありません。特に碑文が風化摩耗しています。昭和 20 年代、30 年代の作られたものももう碑文が読めなくなつたものもあります。また、文献に記されていないものもあります。特に碑文が郷土史には記載されているものもありましたが、町史にはあまり記されていませんでした。また遺産の由来が知られてもいないので、説明パネルがないと何のことやらさっぱりわかりません。さらに明治以前のものは見つけきれないでいます。明治 10 年にこのような施設を作りましたという碑はありますが、災害記念碑などは余りはやっていなかつたんでしょうね。ただ、災害で犠牲になられた方の供養塔はあります。皆様ご存知のように筑後川昇開橋の横に享保の飢饉の時の供養塔が建っています。それには南無阿弥陀仏三界万靈塔と書いてあります。そのような供養塔の形で残されているのではないかと思います。

この写真を見てください。電柱の後ろにある折角の 23 年復旧記念碑が見えません。しかもご丁寧にも平成 2 年の浸水深が書いてあります。後ろの碑に記された浸水深の方がもっと高いのです。見せたくないのかもしれません。これは昭和 24 年水害の碑で三日月町にありますが、全部落ちてしまっています。これは伊万里にあ

## 調査を通じて

### <現 状>

- ・ 多数現存する。
- ・ 様々な災害に関するものがある。
- ・ 保存状態がよくない。碑文が風化摩耗。
- ・ 文献に記されていない(特に碑文)。
- ・ 由来が知られていない。説明パネルもない。
- ・ 明治以前のものが少ない。



る地滑りを祈ったものです。「地滑りを起こしてくれるな」と山に向かって祈ったのですが、説明がないと单なる石の祠です。これは轟排水機門の裏側にある水防施設記念碑ですが、私が行ったときは資材置き場になっていてチェーンで塞いでありました。またこれは藪でとても近づけませんでした。幸いこれは郷土史に記載がありましたので中身が分かりました。これは有田川改修記念碑ですが、有田川にはないのです。実は有田川支流の猿川にこれがあるのです。立派なのが伊万里市にありますが、こちらの方は粗大ごみで埋もれてしまっています。ここには陶板が埋まっていて結構シビアなことが書いてあります。「有田町で 24 名の方が亡くなって、町長が何代にも亘った難工事であった」と書かれているにしては冷たい扱いです。

最後に、災害遺産から学び後世に伝えていくことが大事だと思います。また、これらを後世に残して戴きたいともいます。また私たちはこれからも埋もれた災害歴史遺産を掘り起こして行くつもりでいます。近々、今回調査した内容を冊子に印刷しようと思っています。ご要望があれば送ります。特に古賀館長の所には絶対に送ります。駆け足になりましたが私の発表はこれで終わりにしたいと思います。ご清聴有り難うございました。

## 最後に

- 災害の教訓と共に後世に引き継いでいく
- 地域の防災に活用
- 埋もれた歴史遺産の掘り起し

## 兄弟河川からの報告 1

### 吉野川の歴史遺産

日下武久 吉野川渡し研究会事務局長

#### コーディネイター

今回は歴史遺産に関する報告を行いますと鍋田さんに連絡したところ、先ほどから何回も紹介されている吉野川と利根川から代表が来られるので話を聞いてはとの提案がありましたので、喜んでお受けすることにしました。吉野川の方からお話を聞きたいと思います。

#### 日下武久氏

吉野川の事務局長をしています日下でございます。この呼びかけは先週の利根川での交流会の席でお聞きしました。私たちは、平成14年から16年までの3年をかけて吉野川の「渡し」の調査をし、さらに渡しの調査の時に見つけていた石像100基の調査を平成25年から3年をかけて行いましたので、その概要を30分くらいのパワーポイントに作ってお話をしようと思っていたのですが、どうもフェリーの中で私が自動車のキーを掛けていなかったみたいで、資料を入れたバッグがなくなっていたので、今日は50年前にさかのぼってラジオで聞いて戴きたいと思います。



吉野川水系流域図（「吉野川水系河川整備計画」より、事務局添付）

吉野川は広い範囲で渡し場が多くあります。私が初めて筑後川に来たとき「渡し場はありましたか」と尋ねたところ「それ程ないよ」（会場から「あるよ」の声）あったのですか。そういう話を違う関係者から聞きましたので。「なぜ少ないのでですか」と聞いたら「筑後川は両岸で藩が分かれていたから、余り交流をさせないと云うこともあって渡し場が少なかった」という話を聞きました。吉野川には渡し場が118箇所ありますて、川の長さで計算してみると1.2kmに1箇所になりますので、これは多いな、どこ

にも負けないだろうと私は思いました。「うちにもあるよ」と云う方がおられたらご連絡下さい。なぜこれほど渡し場が多いのだろうと言うことを検討してみました。筑後川は両岸の藩が違うので交流が少なかったのであろう。その点、徳島は阿波藩一つだったから左岸と右岸の交流は自由だった。もう一つ、

徳島では吉野川流域に江戸時代から明治・大正にかけて藍産業が盛んで、者がたくさん生産されれば交通は必然的に盛んになり、渡しが必要になった。もう一つは、大正の4年か5年に阿波・池田間に国鉄が開通しました。右岸側に国鉄ができ左岸側の人の需要も大きかったので今までになかったところにも渡しができ、渡しの革新がおこります。



吉野川渡し位置図（上流）（国交省徳島国道河川事務所）



吉野川渡し位置図（下流）（国交省徳島国道河川事務所）

渡しの革新とは岡田式渡船と呼ばれるものです。両岸に柱を立ててワイヤーを張り、船を結びつけて川の流れを利用して船を運びます。多少の増水があっても船を動かせます。この岡田式渡船のルーツは岐阜県の関市に発し、国際特許を取ったもので、その情報を30代の池田町の郵便局長さんが聞きつけます。

けて吉野川に導入しました。この渡しの革新を行ったことで吉野川は渡しが発達していったのではないかと思っています。

私たちの調査の成果をガイドブックにして、吉野川の上流から下流まで写真展や説明会を開いたときにたくさんの方に来て戴きました。その談話コーナーの中でお聞きしたのは渡しに対する強い思いでした。人と川との結びつきが一番強い乗り物はわたしです。毎日川の水を見ながら渡して渡っていますので思いが強い人が多くおられました。大水が出て女学校を3日も休んだと云った哀しい話もありましたし、渡しは非常に楽しい思い出を作ってくれたと云う人もおられましたし、私が亡くなつて哀しかったと言われる方もおられました。3河川の兄弟縁組みの話を聞いて新聞に投稿された方がおられます。「川は荒れて生活は苦しかったけど、川がおさまって川を活用して地域で交流ができるることは嬉しい」と言った内容です。渡しはそれを読んで非常に嬉しかったです。吉野川流域の年配の方々の川に対する意識は、渡しを通じて培われたのではないかと思います。川を毎日見て、きたない物があったら拾って、川を常に意識して付き合っていたのです。

もう一つ渡しについて話しておきたいことがあります。昔は今みたいに電話やインターネットとかはありませんが、渡しを通して右岸と左岸で人々が行き交います。それによって人の情報や物之情報が、渡しを待っている間、渡しにのっている間に交わされます。吉野川に唯一残っている渡し場がありますが、そこで「うちは向こう岸からお嫁さんに来た人が多い。また、こちらから行った人も多い」という話を聞きました。渡しを通じて縁結びがたくさん起こっていました。これが3河川縁組みのルーツかなと思っています。昔は渡しが通婚圏を作っていた。渡しはただ物や人を運ぶだけでなく、人の心や情報が川を通じて行き來したのです。

その渡し場にたくさんの石像物があります。渡しには悲しい歴史がたくさんあります。災害によって沈没・遭難に遭ったこともあります。今日どうしても向こうへ行かなければ行けない、ただ川が荒れている、それを無理して船を出して災難に会うことがたくさんあったのです。渡し場にはお地蔵さんがたくさん建てられています。立像があり、座像があります。地蔵が地域の守り神であるとの思いから、6箇所くらいで地蔵祭りが行われています。人々のお盆の翌日に地蔵盆が開かれます。人々が集まって子供たちに「この地蔵はこのような理由で作られた」という話をしています。ただ、渡し場は物資の縦の流れ、すなわち舟運の港でもありました。徳島では生産されない御影石でできた4.5mの大きな常夜灯もあります。大きな常夜灯は全部4.5mですから、そこには何か隠された理由があるのかもしれません。

「深く理解する」と云う言葉がよく使われます。我々も仲間同士で「深く理解する」とは何だろうと良き議論をします。歴史を調べ、地域の人々に知つて戴くことによって川に対する意識が深まっていくのではないかと言つた視点に立つて活動をしています。現在、国交省と県にお願いして河川構造物と河川遺構についての調査を7名の仲間と3年間くらい掛けて行い、またガイドブックに纏めようと思っています。

筑後川にどれくらいの渡しがあったのかご存じの方がおられたら教えて下さい。

### 古賀河川図書館館長

河口から日田市まで 62 箇所です。支川の大山川とか巨勢川には別にあったと思いますが、本川では 62 箇所です。河口から日田まで 70km から 80km くらいですから、1km ちょっとに 1 箇所あったこ

とになります。私は筑後川にも結構渡しがあったと思っています。

### 日下武久氏

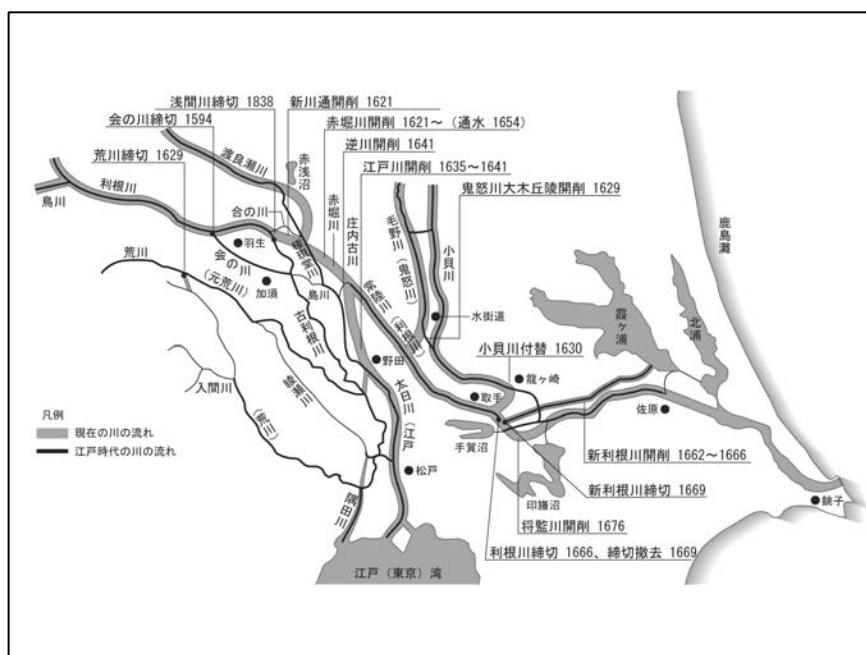
成る程ね。産業とか歴史的・地域的要因が影響するかなと思います。最後に、お亡くなりになったときにお地蔵さんを建てて弔うと云うのが江戸時代までは常識だったのですが、明治以降になって不動明王とお地蔵さんがペアで建つようになります。それを検討した結果、不動明王は恐ろしい顔をしていますので「この地域は危ないよ」と予防しているのではないか、一方お地蔵さんは弔いをあらわしている。予防と弔いという2つの意味を持たせた様式が3箇所くらいで見られます。今河川構造物を調査していますが、このことからどのように利水され、治水されているかをより深く理解できるのではないかと思います。

## 兄弟河川からの報告 2

### 利根川の歴史遺産

福成孝三 利根川流域交流会会長

利根川から参りました福成です。今日は利根川の紹介の形になりますがスライドを使って 10 分だけお話をさせて戴きたいと思います。利根川は、江戸時代より前は東京湾の方に流れておりました。江戸時代に入る少し前、1594 年に合の川の締切をはじめとして現在の利根川の流路のように直接銚子の方に流れるように変えられました。最初に合の川の締切があり、1621 年から 1654 年までに赤堀川の開削があって今の利根川の姿になりました。



このことを利根川の動転と呼ばれていますが、その大きな目的は、東北の方から江戸に向かう船のための川にすること（舟運）と利根川下流部の土地の開発、さらに江戸の洪水防御です。この中で最も大きかったのは舟運だろうと思います。明治の初め頃まで利根川の支流を多くの船が行き来していました。

これは下流部の佐原の姿ですが、現代でも佐原は蔵の建物が立ち並んでいます。ここ小野川は昔から物資の集積地で、今も昔ながらの蔵の風景を垣間見ることができます。ここは伝統的建物群の指定を受けており、これからもこの町並みをしっかりと伝えていくことが大事だと思います。

ここ近くには横利根閘門があります。霞ヶ浦沿線を利根川の洪水から守るための水門です。昔は、舟運が大きなウェイトを占めていましたので、大正年代にこの横利根閘門がレンガ造りで作られました。現在でもこの横利根閘門には釣り船やレジャーボートが利用しています。このように洪水防御や舟運といった昔からの機能を發揮するための様々な河川構造物が作られており、今も実際に利用されています。

これは利根運河の現在の姿です。利根運河は東北からの船を利根川から江戸川を通して江戸の町まで物資を運ぶ舟運の役割を果たしていましたが、利根川と江戸川を8kmで結んでいる利根運河は、明治21年から明治23年にかけて利根運河株式会社という民間企業によって掘られました。明治24年頃にはこの利根運河に一日およそ100隻余りの船が往来していましたが、昭和に入って鉄道もでき、昭和12年には年間5~6000隻に減少してしまいました。その後舟運の役割はなくなりましたが、昭和



の高度成長期以降、暫定導水路として利根川の水を東京都の都市用水として活用しようとこの利根運河が活用されました。しかし、利根川の下流に北島導水路が 2000 年くらいに完成して、安定した水野

供給ができることになったのを機に、環境整備が行われ市民の憩いの場になって賑わっています。昔の舟運、利水の役割から環境の役割へと時代とともに河川構造物の役割が変わってくることを示しています。この利根運河も土木学科の土木遺産登録、通産省の近代化産業遺産になっています。

これは、利根運河より少し上流にあります閑宿水閘門で、大正 7 年から昭和 2 年にかけて作られました。利根川と江戸川の水を洪水の時あるいは低水の時にどのように配分するかは当時から大きな問題でしたが、現在でも大きな課題として残っています。この閑宿水閘門も土木学会の土木遺産として指定されています。

利根川の上流部に中条堤と呼ばれるものがあります。現在、下流には調整池がいくつありますが、基本的には連続堤防が設けられています。江戸時代のはじめ、利根川の上流部のこの中条堤が作られました。利根川の右岸側の堤防を低くし、中条堤を設けて遊水地に誘導し、下流部では洪水が溢れないようしようとしました。このような施設が現在も遺されています。

これは渡良瀬遊水地です。渡良瀬川上流部で足尾鉱毒事件が起きまして、村を移転して土地を国有化し、その跡地を遊水地として整備されてきました。現



在も遊水地としての機能は持っていますが、最近では2014年にラムサール登録されて、この地域の自然環境を守り、あるいは地域の人たちのレクレーションの場として活用も行われています。これも昔の鉱毒事件から治水・利水の機能へ、そして最近の環境機能へと時代とともに変化してきています。

最後に治水の記念碑ですが、昭和22年9月、戦後まもなくですが、カスリーン台風が発生し、その影響で利根川の右岸側の堤防が決壊して、4日から5日かけて東京湾に流出しました。元々利根川は銚子の方ではなく東京湾の方に流れていきましたので、洪水は素直なもので決壊すると高い方から低い方へ流れ大きな被害をもたらしました。現在この辺りの堤防が決壊すると、水は東京湾の方に流れ、東京の下町の人口が過密なところにも大きな被害が起こることがあるという教訓をこのカスリーン台風の爪痕は我々に与えているものだと思います。



以上簡単ですが報告に変えさせて貰います。

### コーディネイター

有り難うございました。短時間で誠に申し訳ありませんでした。兄弟河川としてまた何回も来て戴けるとのことですので、時間を作つて兄弟河川のお話もお聞きしたいと思います。ここは交流会議ですから本来なら皆様と意見交換を行わなければならないのですが、今日は歴史に関する事業の初年度で、3年計画で実施しますので、次回から各河川等の報告をお聞きしたいと思います。

今日、本間さんに前の席に座つて戴いたのは、私も実行委員会のメンバーに入っていますが、記念すべき第30回筑後川フェスティバルが来年の6月に開催されることが決まっていますので、スケジュールを確保するためにも、第30回筑後川フェスティバルのことを報告して戴きたいと思ったからで。本間さん、よろしくお願ひします。

### 本間雄治氏（NPO法人大川未来塾）

大川未来塾の本間と申します。筑後川フェスティバルは例年秋口に開催されますが、大川はへそ曲がりが多くて来年は6月に開催することにしました。予算も決まらない内に計画を決めなければいけないので大変です。私も調査を行っていますが、明治の近代化が筑後川下流部で盛んに行われましたが、それを支えたのがデ・レイケ導流堤と呼ばれる筑後川導流堤です。本来の導流堤は筑後川河口にあるもので、石黒五十二はデ・レイケ導流堤のことを制水工と呼んでいます。早津江川沿いに今回世界遺産になった三重津海軍所跡がありますので、「近代化と河川の関わり」をメインテーマにして開催したいと考えています。大川の主催ですが佐賀の方とも連携して開催しようと思っています。特に、先ほどからで

ていますが、「30回記念筑後川フェスティバル」と記念と敢えて入れたのは、私たちの理事長が非常に若いとき、30年前に第1回の筑後川フェスティバルを大川の地で開いて、それからずっと続いているので「記念の文字を入れよう」ということで、記念の文字を入れました。来年はエツの解禁シーズンに開催しますので、是非ご参加下さい。駄田井先生からは3河川の了承も執るよう言われましたが、グルメも含めて歴史を語る30回大会を開催したいと考えています。

### コーディネイター

来年は6月11日と12日です。今日は、多くのNPO法人の方々が欠席されておられます。11月はNPO法人にとっても自らのイベントを開催するのにも良い時期で、多くのNPO法人とイベントが重なって参加されておられません。6月だとまだそれ程イベントは開催されないと思いますのでたくさんの糧に集まって戴けると思います。次回のNPO法人交流会議は、多くの方に発表して戴きたいと考えています。多くの方がおしゃべりで、本間さんだけでも半日はかかるくらいの内容をお持ちですが、そこはがまんして戴いて、できるだけたくさんの方から報告を受けたいと思います。一人15分以内に纏めて戴いて、自分たちの川がいかに歴史的遺産をたくさん持っていて、それを誇りにしているかを表現して戴きたいと思います。

歴史的なものを学んでおくことは、次の時代の治水・利水のあり方、環境との調和のとり方といったものを考えるときにその成果が活かされると思います。

今日は、次の講演もありますので時間通りに終わりたいともいます。どうも有り難うございました。